

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の考察

苫小牧市

公表

令和6年8月21日

苫小牧市教育委員会 教育部 指導室

目次

○令和6年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

・調査の概要	1
・小学校国語科	2
・小学校算数科	3
・中学校国語科	4
・中学校数学科	5

○令和6年度全国学力・学習状況調査児童質問（小学6年児童）調査の結果と考察

・学習に対する興味・関心等（国語）	6
・学習に対する興味・関心等（算数）	8
・学習に対する興味・関心等（英語）	10
・学習に対する興味・関心等（理科）	11
・規範意識・自己有用感	12
・生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心	14
・ICTの活用	17
・学校生活	18

○令和6年度全国学力・学習状況調査生徒質問（中学3年生徒）調査の結果と考察

・学習に関する興味・関心等（国語）	22
・学習に関する興味・関心等（数学）	24
・学習に関する興味・関心等（英語）	26
・学習に対する興味・関心等（理科）	27
・規範意識・自己有用感	28
・生活習慣・学習習慣・地域や社会への関心	30
・ICTの活用	33
・学校生活	34

○令和6年度全国学力・学習状況調査学校質問紙調査の結果と考察

・学力向上に向けた取組＜ICTの活用＞	38
・学力向上に向けた取組＜小中連携の取組＞	39
・学力向上に向けた取組＜授業改善＞	39

令和6年度全国学力・学習状況調査の苫小牧市における調査結果

令和6年8月21日 苫小牧市教育委員会

- ・平均正答率については、四捨五入した整数値で公表しております。
- ・平成30年度まで国語と算数・数学は、A問題（主として知識に関する問題）、B問題（主として活用に関する問題）に分かれて実施されていましたが、平成31年度調査より知識・活用を一体的に問う調査問題と変更されました。
- ・令和2年度全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染症に係る影響のため中止となり、児童生徒質問紙のみ実施しました。令和2年度の数値は参考値となります。

調査の概要

- 1 実施日
令和6年4月18日（木）
- 2 調査対象
(1) 小学校第6学年
(2) 中学校第3学年
- 3 対象学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
苫小牧市	23	1,356	15	1,270
北海道	936	34,531	572	33,614

※小学校数には、義務教育学校前期課程、中学校数には、義務教育学校後期課程を含む。

- 4 調査事項
(1) 教科に関する調査
小学校…国語、算数の2教科 中学校…国語、数学の2教科
(2) 生活習慣、学習環境等に関する質問調査
①児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
②学校に対する調査（指導方法、教育条件の整備等）

苫小牧市の小・中学校における全体的な傾向

(学力に関すること)

- ☆小学校国語の平均正答率は全国平均とほぼ同等です。
- ★小学校算数の平均正答率は全国平均より4%程度下回っています。
- ★中学校国語の平均正答率は全国平均より2%程度下回っています。
- ★中学校数学の平均正答率は全国平均より5%程度下回っています。
- ☆児童質問調査から、小学校では、「平日の1日当たりの学習時間」において、1時間以上学習していると回答した割合が全国平均を上回っています。
- ★生徒質問調査から、中学校では、「平日及び休日の1日当たりの学習時間」において、2時間以上学習していると回答した割合が全国平均を下回っています。

(地域や社会に関すること)

- ☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した割合が、令和5年度から大きく上昇しています。

(学校生活に関すること)

- ☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した割合が全国平均を上回っています。

(いじめに関すること)

- ☆児童・生徒質問調査から、小・中学校ともに「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答した割合が、全国平均を上回っています。

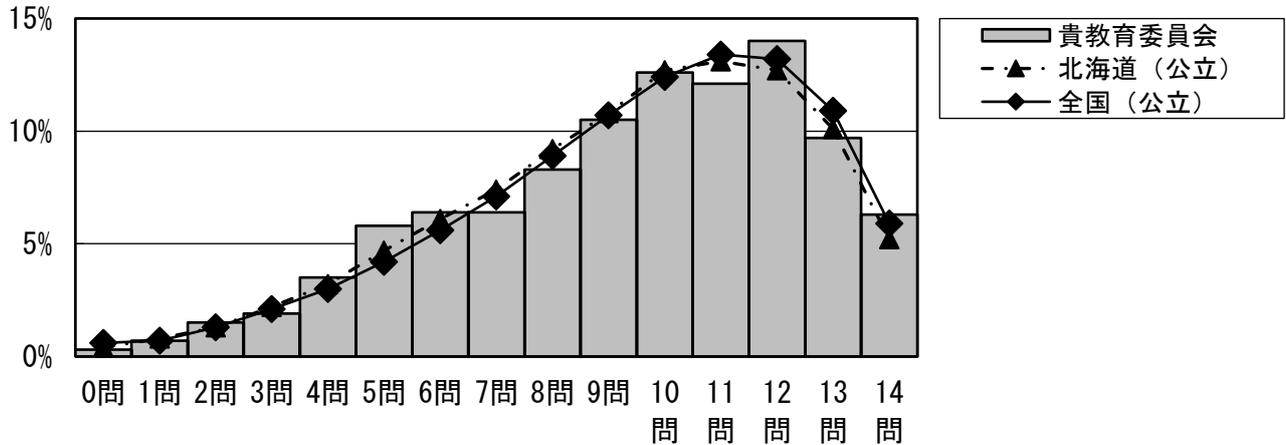
(ICT機器の活用に関すること)

- ★ICT機器の活用頻度は全国と同等ですが、活用方法に課題が見られました。

調査結果概況 [国語]

苫小牧市教育委員会—児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



小学校 国語科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	9.4 / 14	67
北海道	9.3 / 14	67
全国	9.5 / 14	67.7

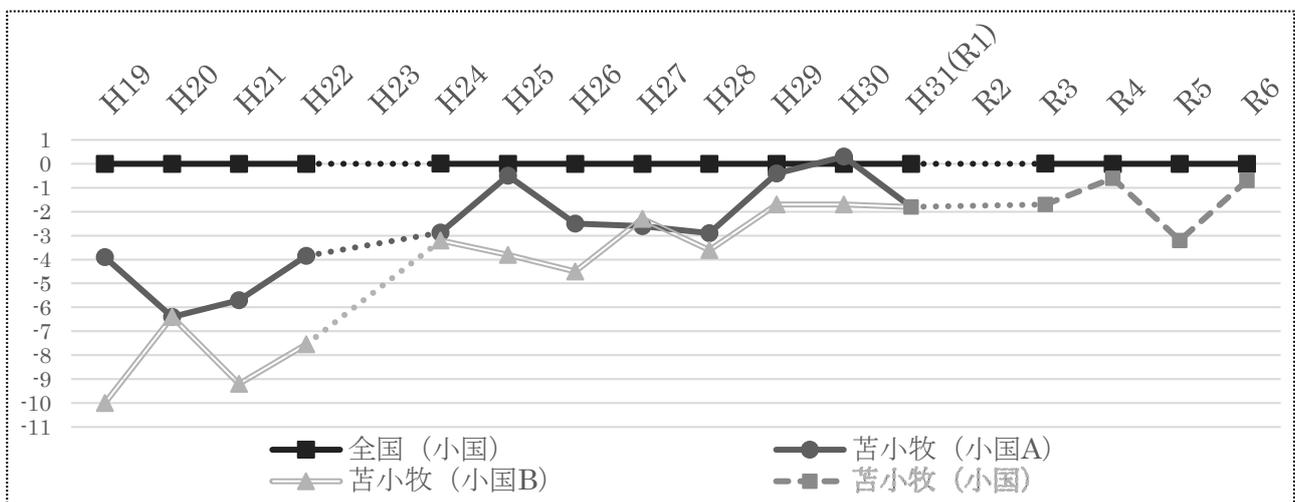
平均正答数

出題数に対する正答数の
の平均値

平均正答率

問題数を100%とし
た時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



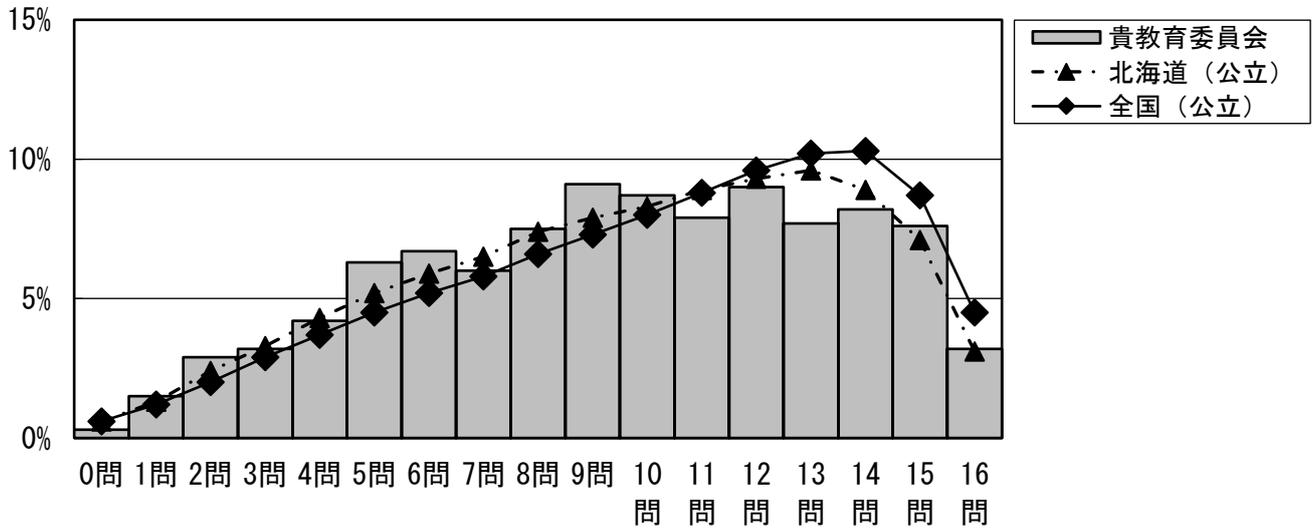
分析と考察

- 全体の正答率は全国の平均正答率とほぼ同等で、領域ごとの正答率も大きな差はありません。すべての記述式の問題で全国平均を上回る結果となりました。
- 「読むこと」では、物語を読んで、心に残ったところとその理由を60字から100字以内にまとめて書くことについて、全国平均を上回っています。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、文の中における主語と述語との関係を捉えることについて、全国平均を下回っており課題が見られます。

調査結果概況 [算数]

苫小牧市教育委員会—児童

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



小学校 算数科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	9.5 / 16	59
北海道	9.7 / 16	61
全国	10.1 / 16	63.4

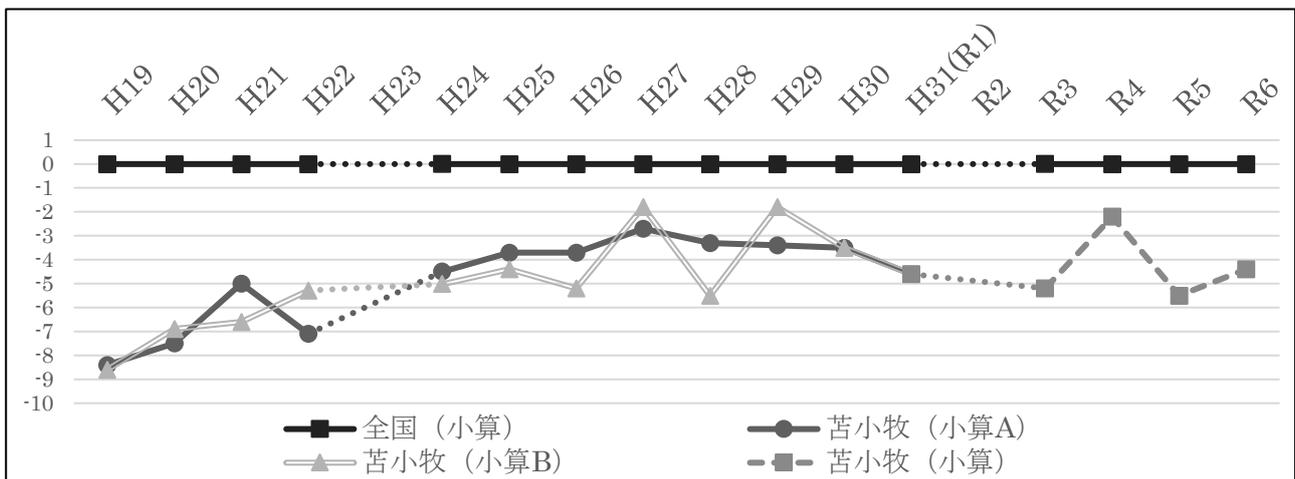
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



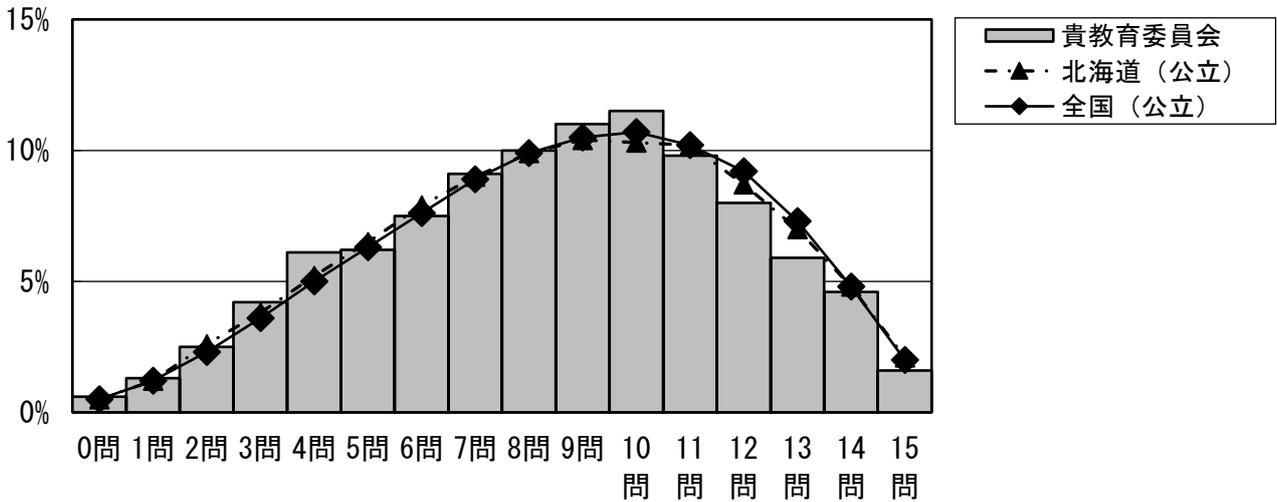
分析と考察

- 問題場面の数量関係を捉え、式に表す問題において、無解答率が0%であることから、問題に粘り強く取り組む姿があったことがうかがえます。
- 「数と計算」領域の正答率が全国平均を下回っています。特に、除数が小数である場合の除法の計算や、除数と商の大きさの関係など、小数の除法の知識及び技能に課題が見られます。
- 「記述式」の問題において、正答率が全国平均を下回っている問題が多いことから、式や言葉を使って、順序立てて説明することに課題が見られます。

調査結果概況 [国語]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



中学校 国語科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	8.5 / 15	56
北海道	8.6 / 15	58
全国	8.7 / 15	58.1

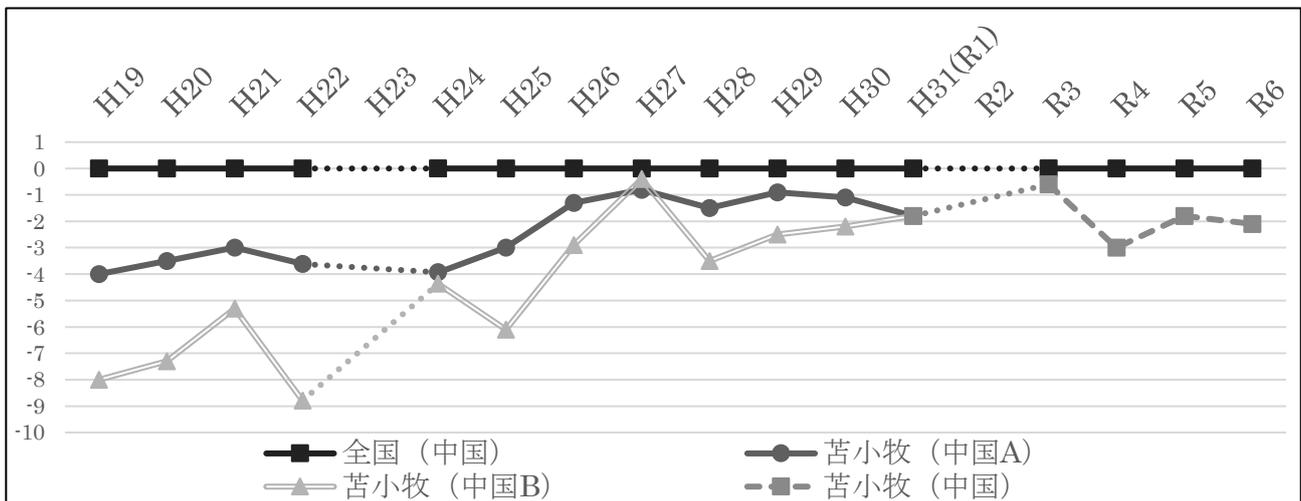
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



分析と考察

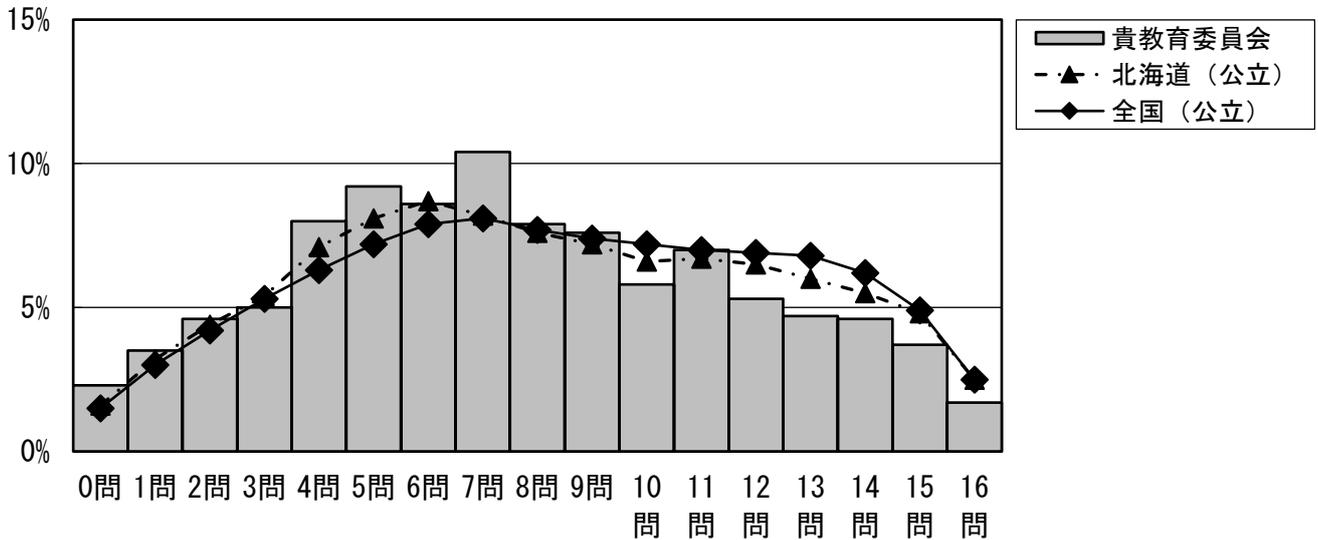
○全ての領域で正答率が全国平均を下回っていますが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国の正答率とほぼ同等です。文脈に即して漢字を正しく書く問題では、正答率が全国平均を上回っています。

●「記述式」の問題で正答率が全国平均を下回る結果となりました。特に、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫できるかどうかをみる問題において、正答率が全国平均を大きく下回っています。また、無回答率が20%を超えており、課題が見られます。

調査結果概況 [数学]

苫小牧市教育委員会—生徒

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



中学校 数学科に関する調査結果

	平均正答数 (問/出題数)	平均正答率 (%)
苫小牧市	7.7 / 16	48
北海道	8.2 / 16	51
全国	8.4 / 16	52.5

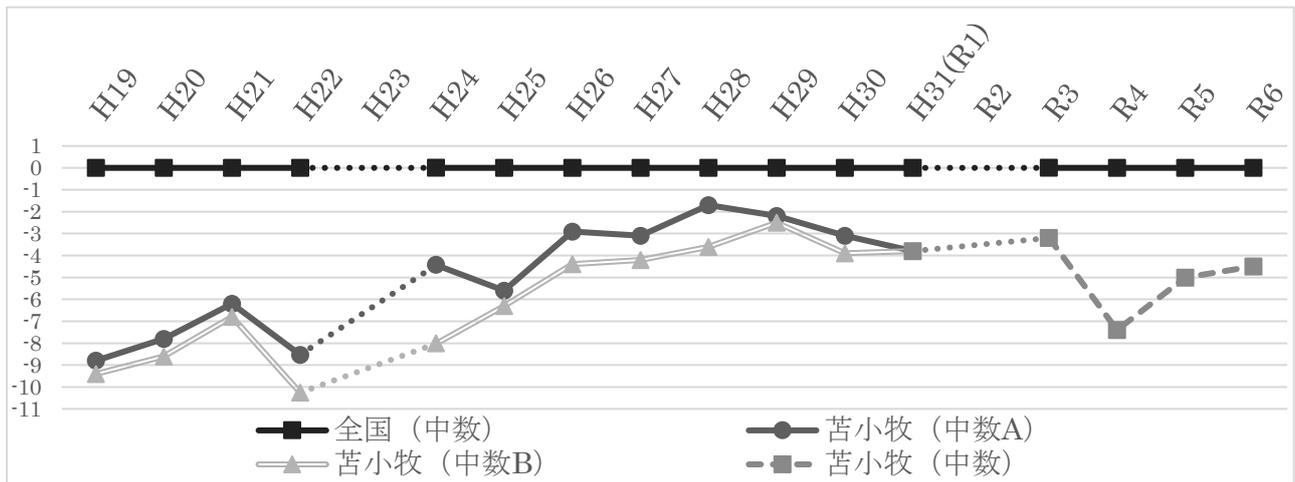
平均正答数

出題数に対する正答数の平均値

平均正答率

問題数を100%とした時の正答数の割合

全国平均正答率との差の推移グラフ（全国を0.0としたときのグラフ）



分析と考察

- 「データの活用」では、確率を求める問題において、正答率が全国平均を上回っており、知識・技能の定着が見られます。
- 「記述式」の問題では、合同な図形の証明において、無回答の生徒が約46%います。論理的に考察するとともに、筋道立てて説明することについて課題が見られます。
- 「思考・判断・表現」に関する資質・能力が全国平均を下回っています。基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決する学習過程を取り入れるなど、より一層充実した授業改善が必要であるとうかがえます。

令和6年度全国学力・学習状況調査児童質問（小学6年児童）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

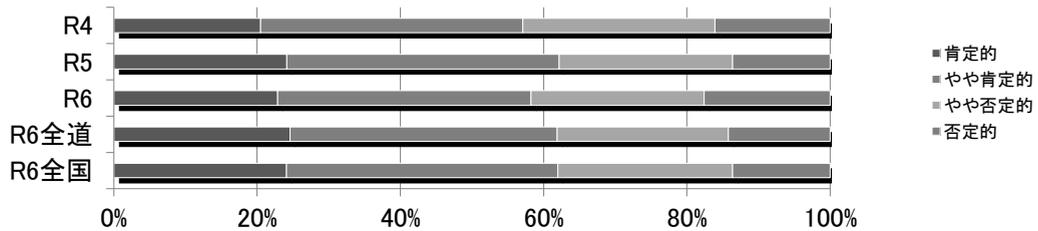
小学6年児童

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

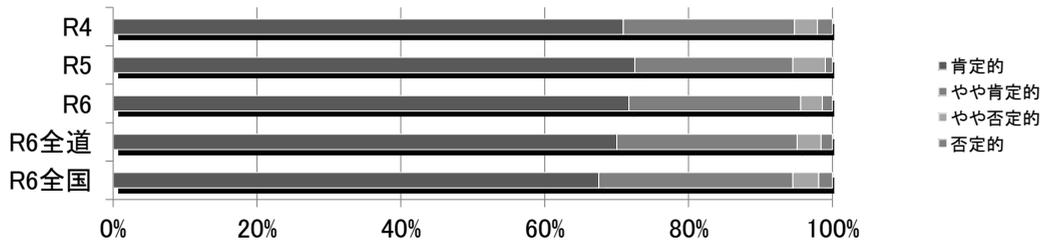
学習に対する興味・関心等 （国語）

【考察】 ほぼ全ての設問において、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回る結果であるといえる。しかし、「国語の勉強は好き」と回答した割合が全国平均を下回っており、否定的な回答をした児童が40%を超えている。児童の興味関心や問題意識を生かしたり、課題を児童自身の力で解決させたりする等、主体的な学びを引き出す学習過程の工夫が必要であるとうかがえる。

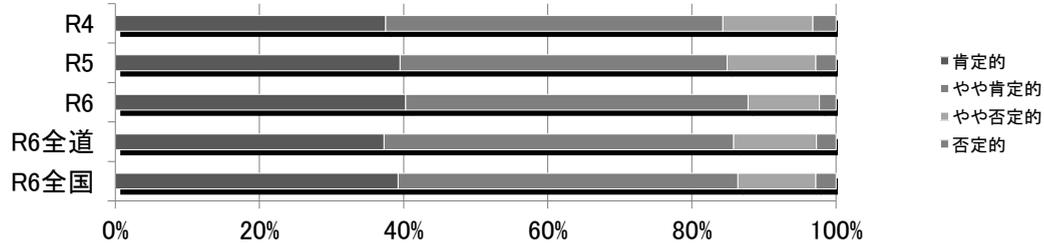
42 国語の勉強は好き。



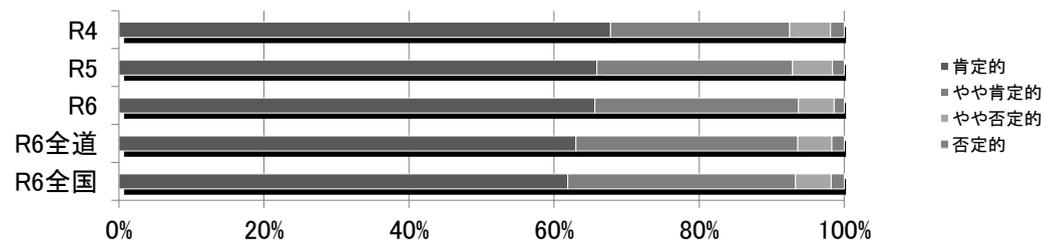
43 国語の勉強は大切だと思う。



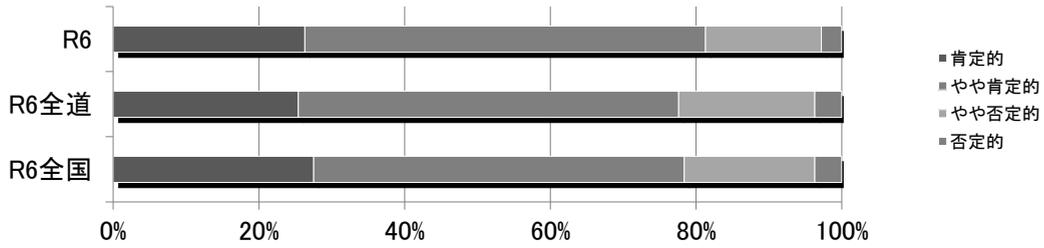
44 国語の授業の内容はよく分かる。



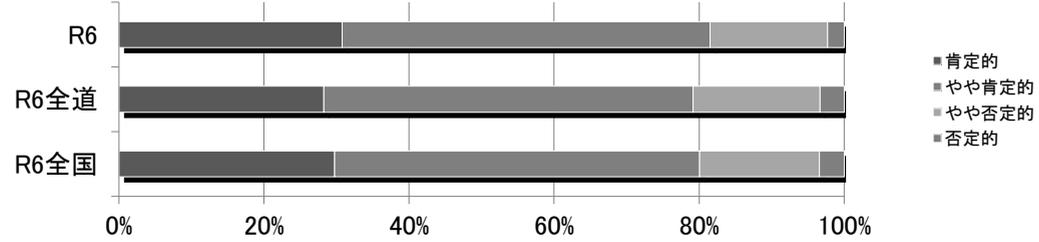
45 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



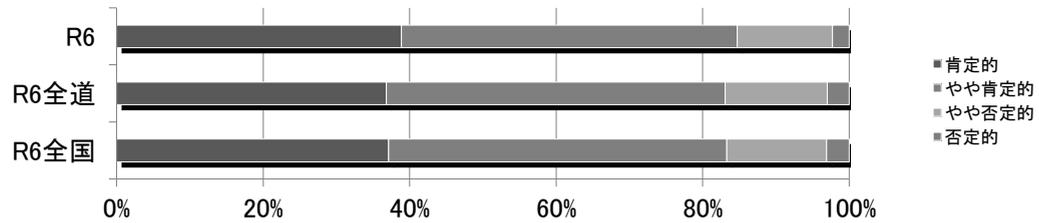
46 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している。
 (新設問)



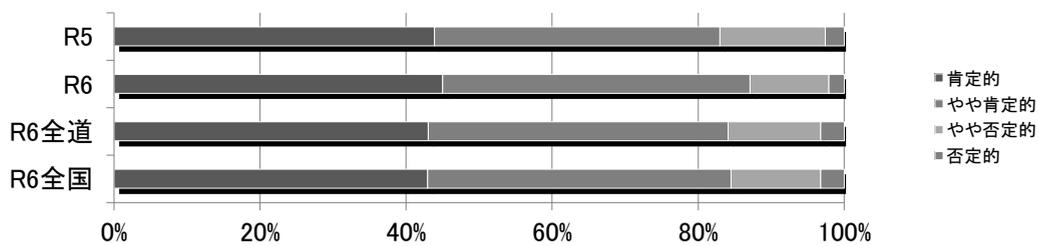
47 国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えている。(新設問)



48 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。(新設問)

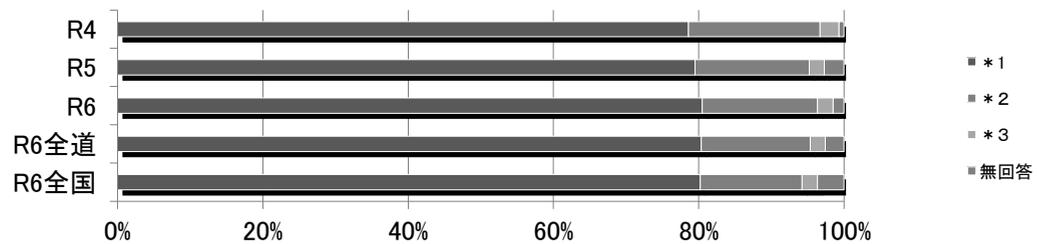


49 国語の授業で物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているかに着目している。



国(1) 今回の国語の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

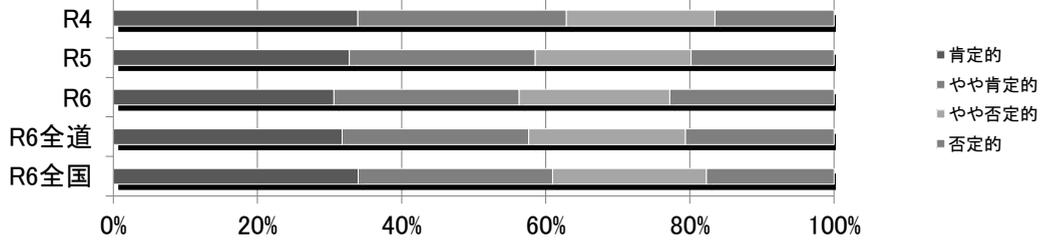
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



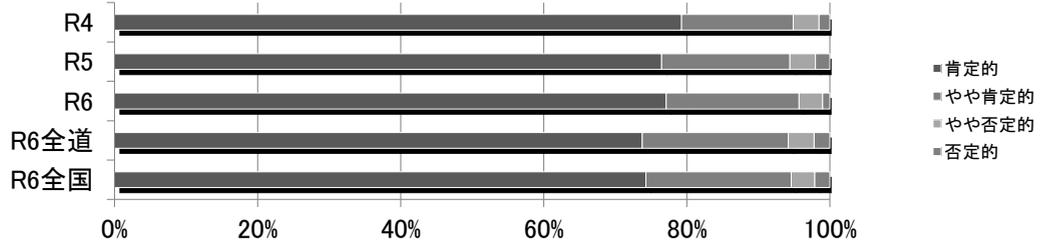
**学習に対する興味・関心等
(算数)**

【考察】 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」「今回の算数の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合が全国平均を上回っている。また、「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した割合が全国平均と同程度であり、調査結果においても、令和5年度から上昇傾向にあることから、児童の主体的な学びに向け、理解の実感もてるような授業改善が進んでいることがうかがえる。

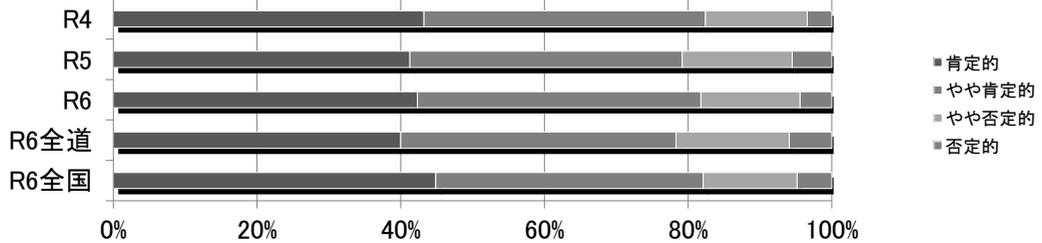
50 算数の勉強は好き。



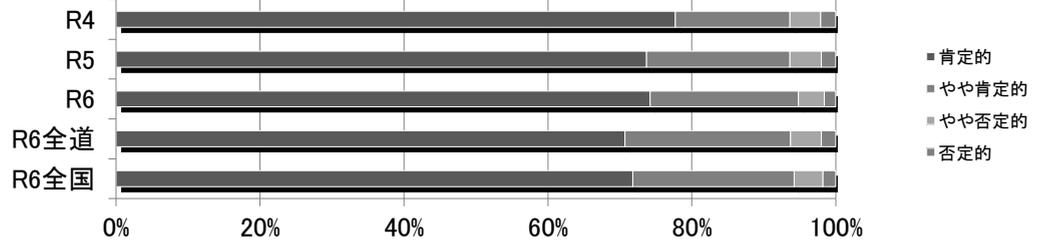
51 算数の勉強は大切だと思う。



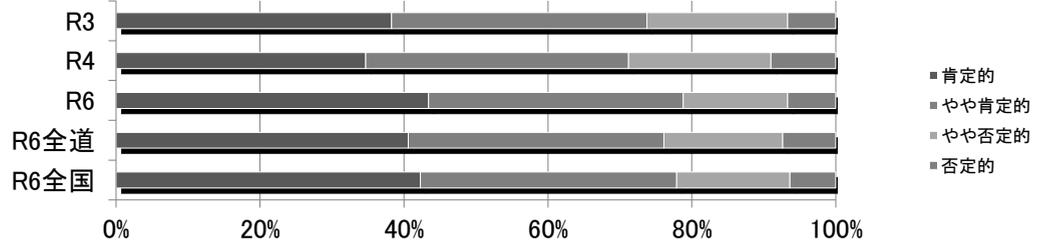
52 算数の授業の内容はよく分かる。



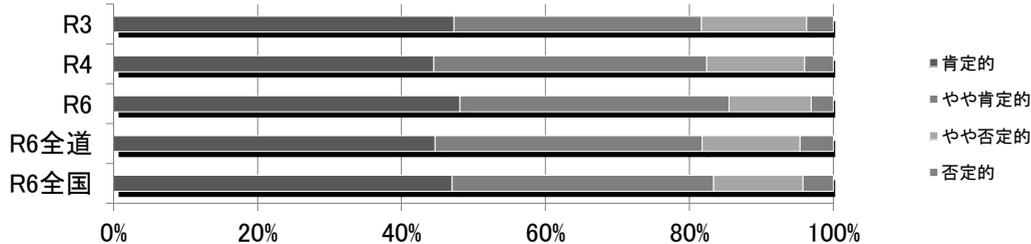
53 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



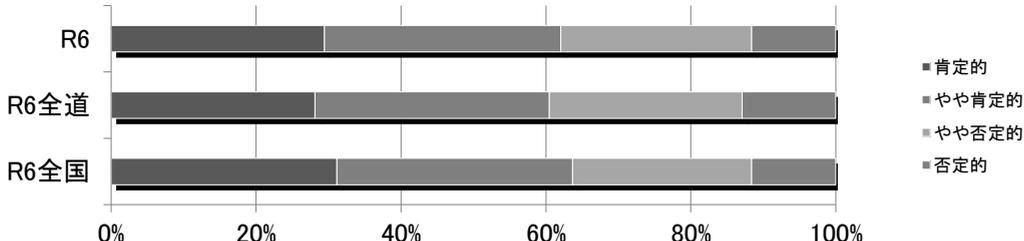
54 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。



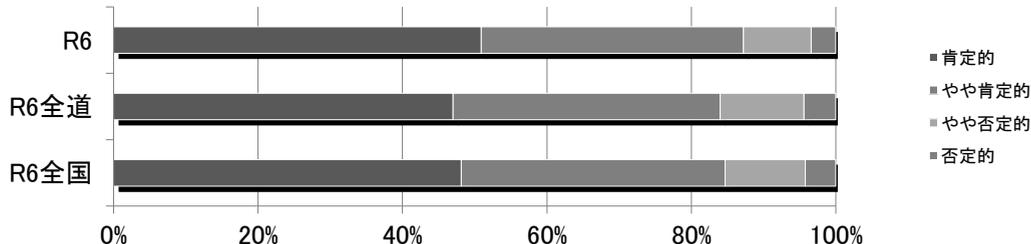
55 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



56 算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。(新設問)

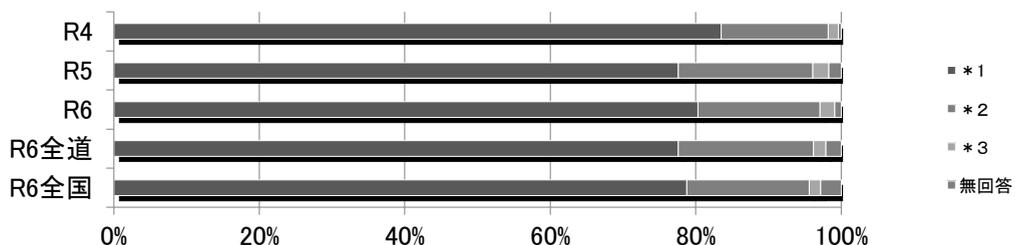


57 算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。(新設問)



算(1) 今回の算数の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

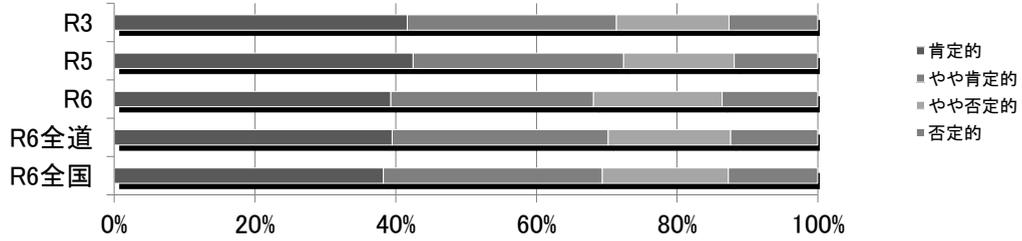
- * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった。
- * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



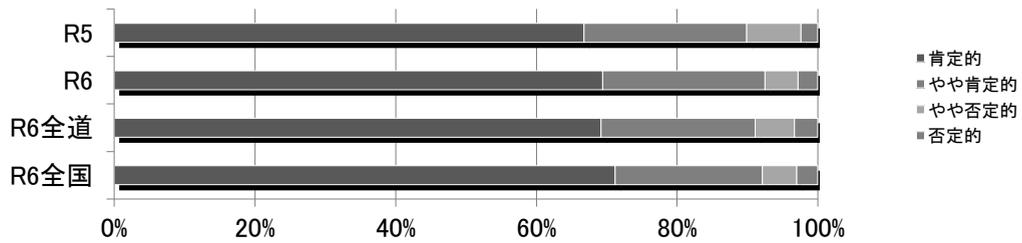
**学習に対する興味・関心等
(英語)**

【考察】 「英語の授業の内容はよく分かる」と回答した割合が全国平均を上回っている。しかし、「英語の勉強は好き」では、否定的な回答をした児童が30%を超えている。日常的な授業において、児童に英語を通して伝え合う喜びを実感させるため、自分の思いや考えを表現する場面や、外国語指導助手（ALT）を積極的に活用する機会を設定し、英語でのコミュニケーション能力を高める必要があるとかがえる。

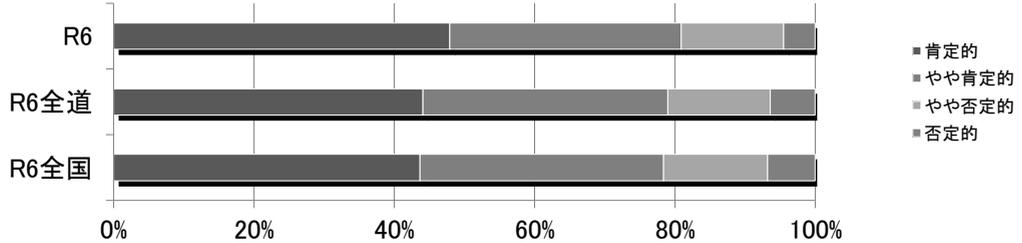
61 英語の勉強は好き。



62 英語の勉強は大切だと思う。



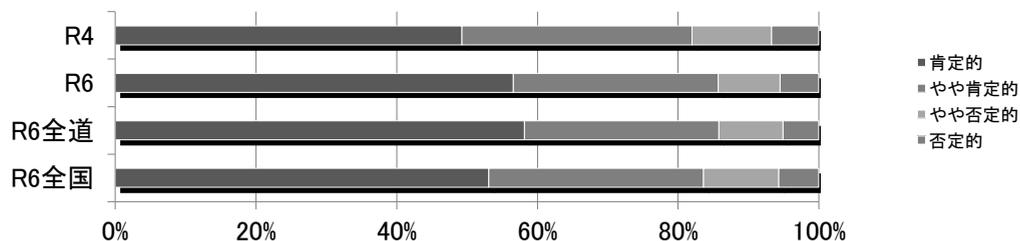
63 英語の授業の内容はよく分かる。(新設問)



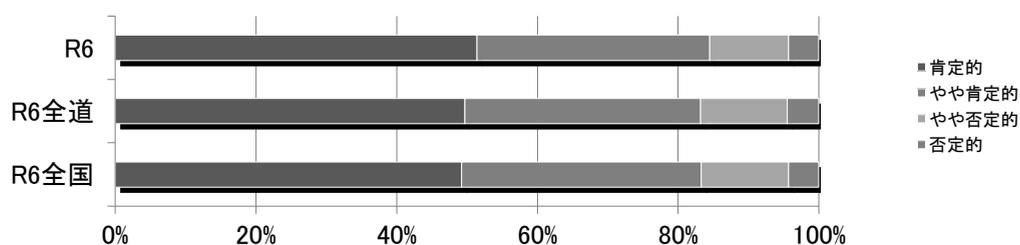
学習に対する興味・関心等 (理科)

【考察】 理科におけるすべての設問において、肯定的な回答をした割合が全国平均を上回っている。特に、「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した割合が令和4年度から増加している。予想や仮説を基に観察、実験を行い、得られた結果を基に結論を導き出すといった問題解決の過程を大切にした授業が各校で推進されているとかがえる。

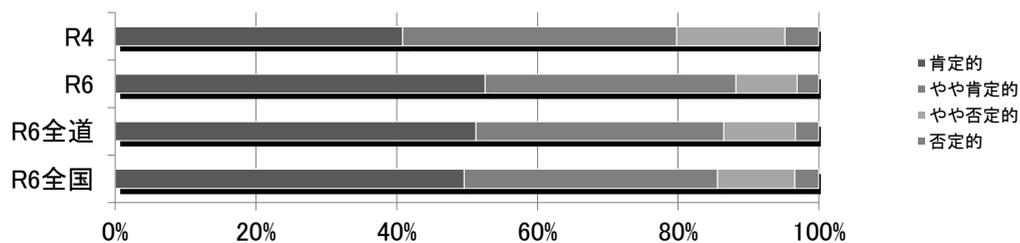
64 理科の勉強は好き。



65 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。(新設問)



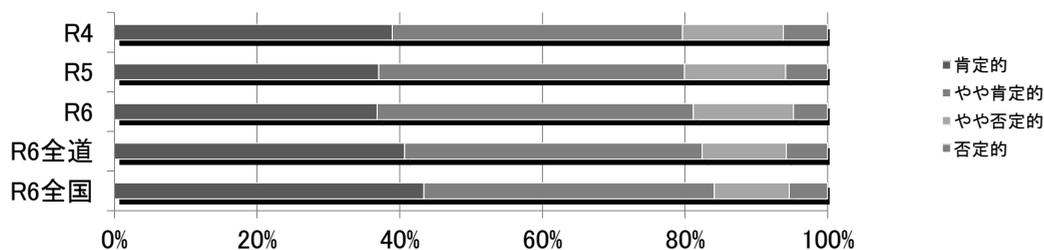
66 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



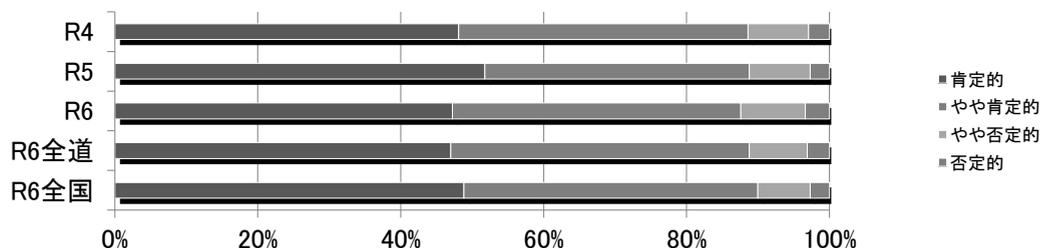
規範意識・自己有用感

【考察】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合が全国平均を上回っている。今後も、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組むとともに、「苫小牧市いじめ防止基本方針」や、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組を充実させる必要があるとかがえる。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的な回答をした児童が90%程度いることから、多様な教育活動を通して、教師が一人一人のよさを伝えるなど、子どもたちを認め伸ばそうとしていることがうかがえる。

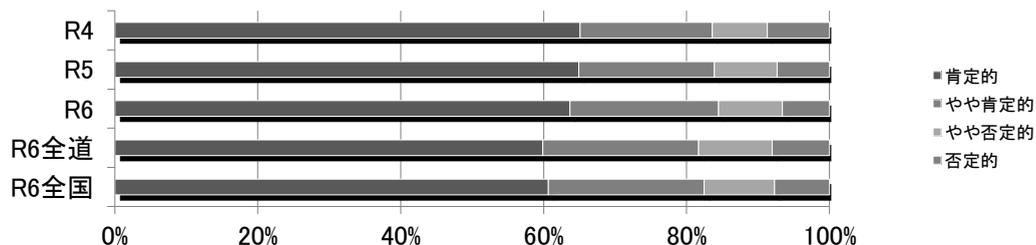
9 自分には、よいところがあると思う。



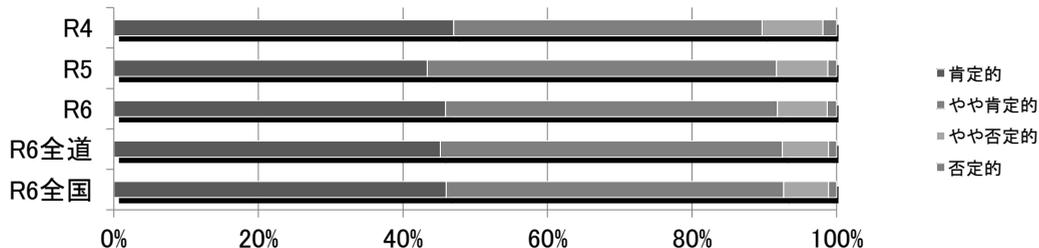
10 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



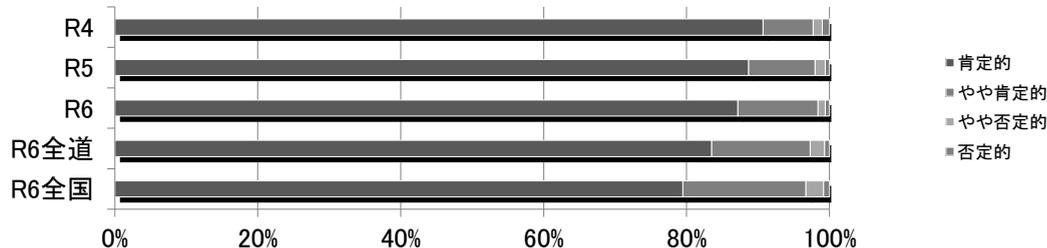
11 将来の夢や目標を持っている。



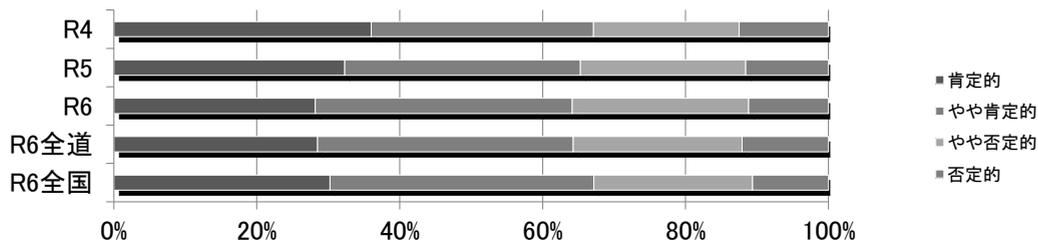
12 人が困っているときは、進んで助けている。



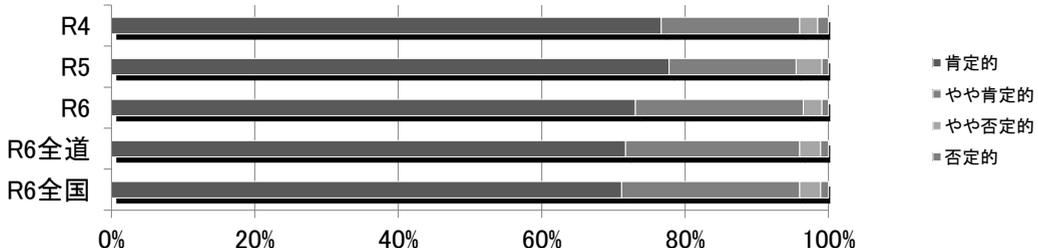
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



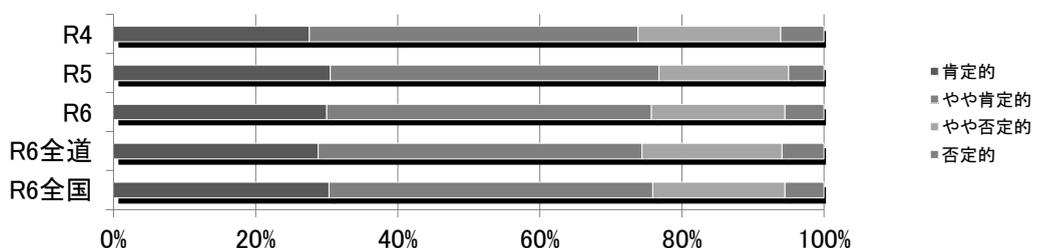
14 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



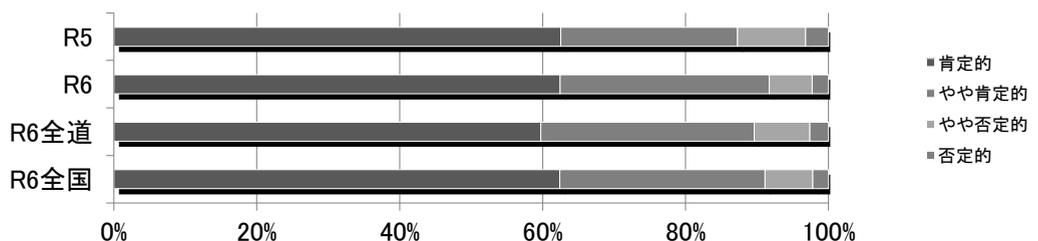
15 人の役に立つ人間になりたいと思う。



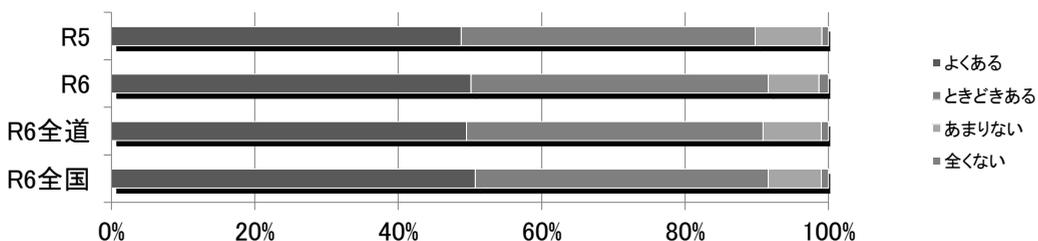
17 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



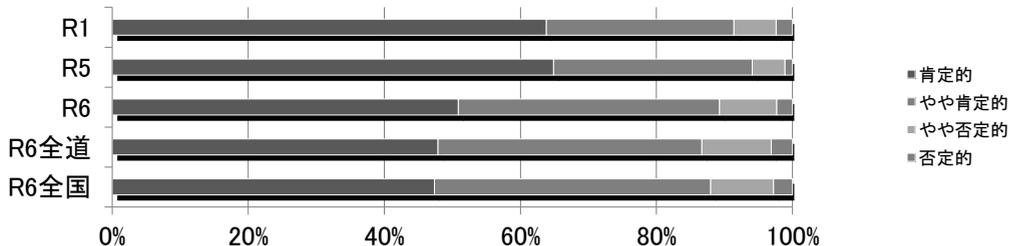
18 友達関係に満足している。



19 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



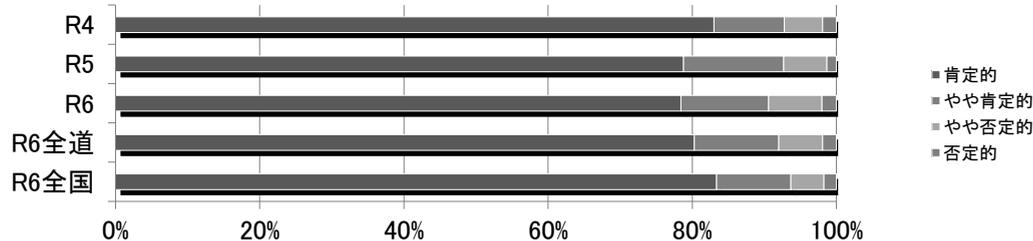
36 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。



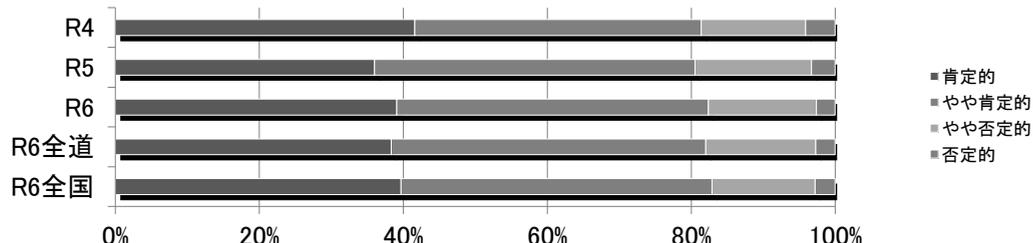
生活習慣・学習習慣・
地域や社会への関心

【考察】 平日における「1日当たりのテレビゲームの利用時間」と「1日当たりのSNSや動画視聴の時間」では、「2時間以上利用している」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っている。令和6年3月に苫小牧市教育委員会が策定した「子どもと一緒に考える安全・安心な情報機器利用のためのガイドライン」の内容を踏まえ、家庭で情報機器の使い方を話し合うとともに、地域や学校も一体となって子どもたちの安全で安心な情報機器利用環境を目指していく必要があるとかがえる。

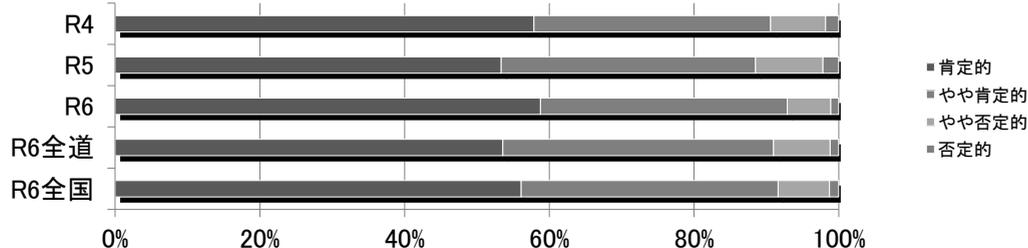
1 朝食を毎日食べている。



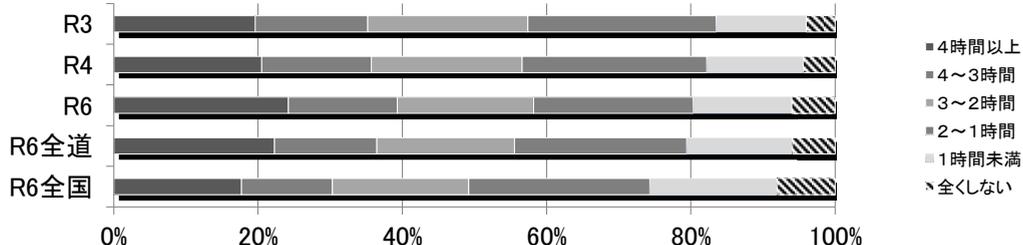
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



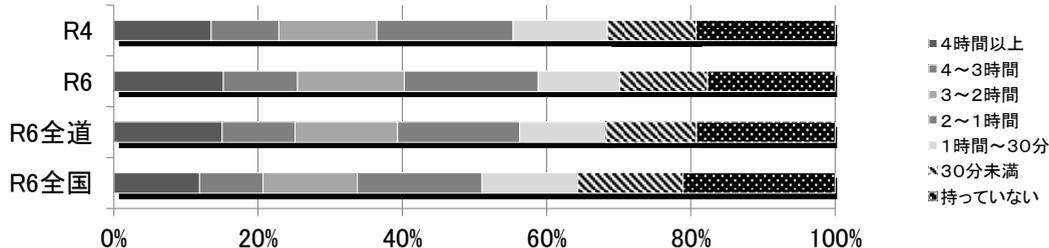
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



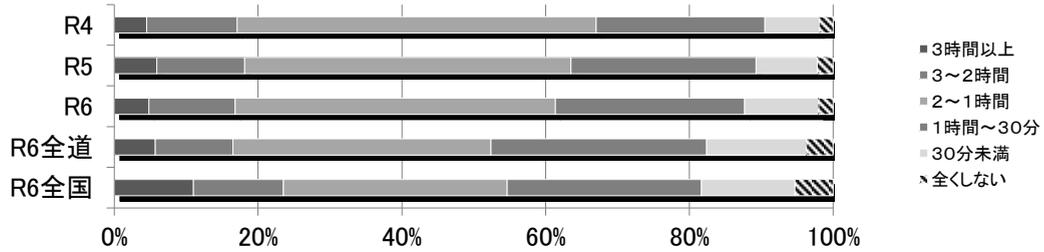
5 普段（月～金）、1日当たりのテレビゲームの利用時間。（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）



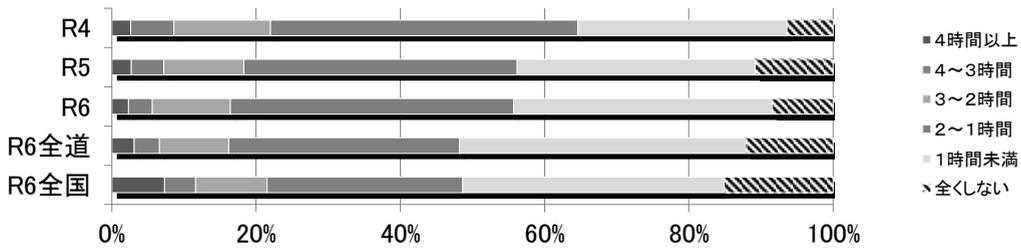
6 普段（月～金）、1日当たりのSNSや動画視聴の時間。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームの時間は含めない）



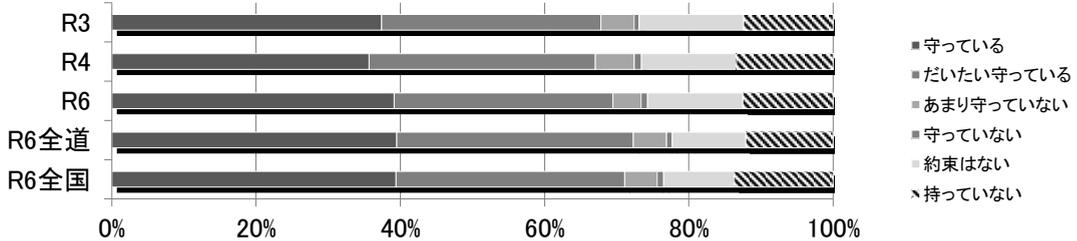
21 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



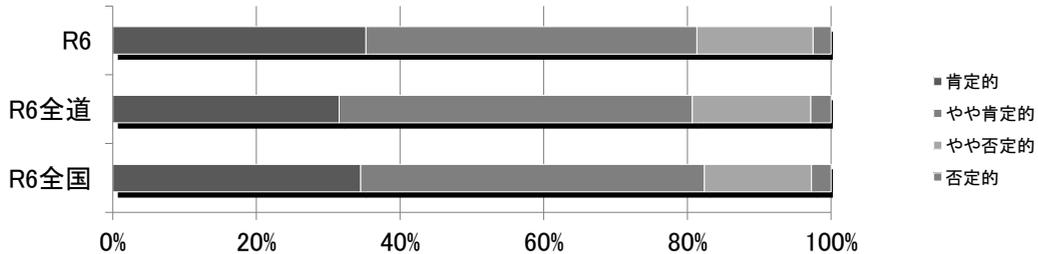
22 休み(土日等)の日の、1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



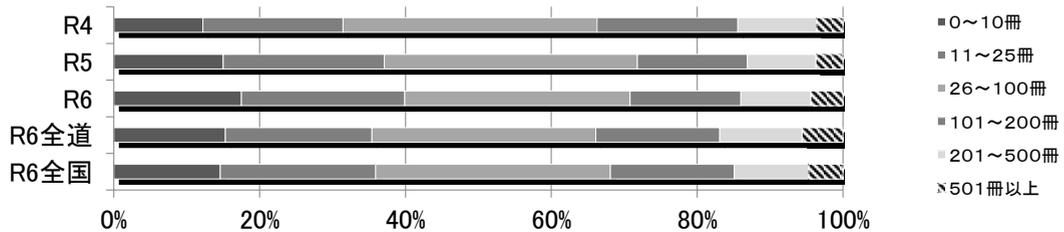
7 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。



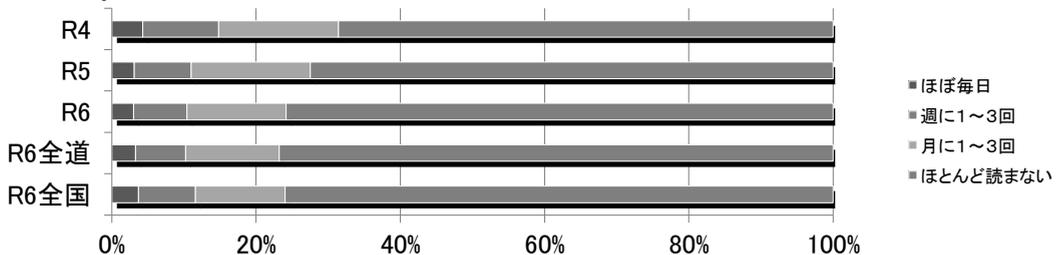
8 健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。(新設問)



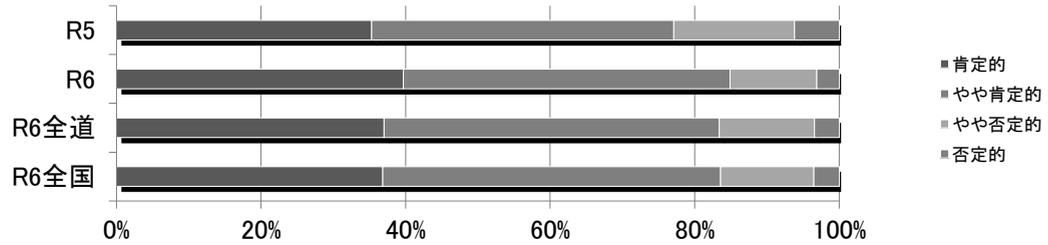
23 家にある本の冊数。(雑誌、新聞、教科書は除く)



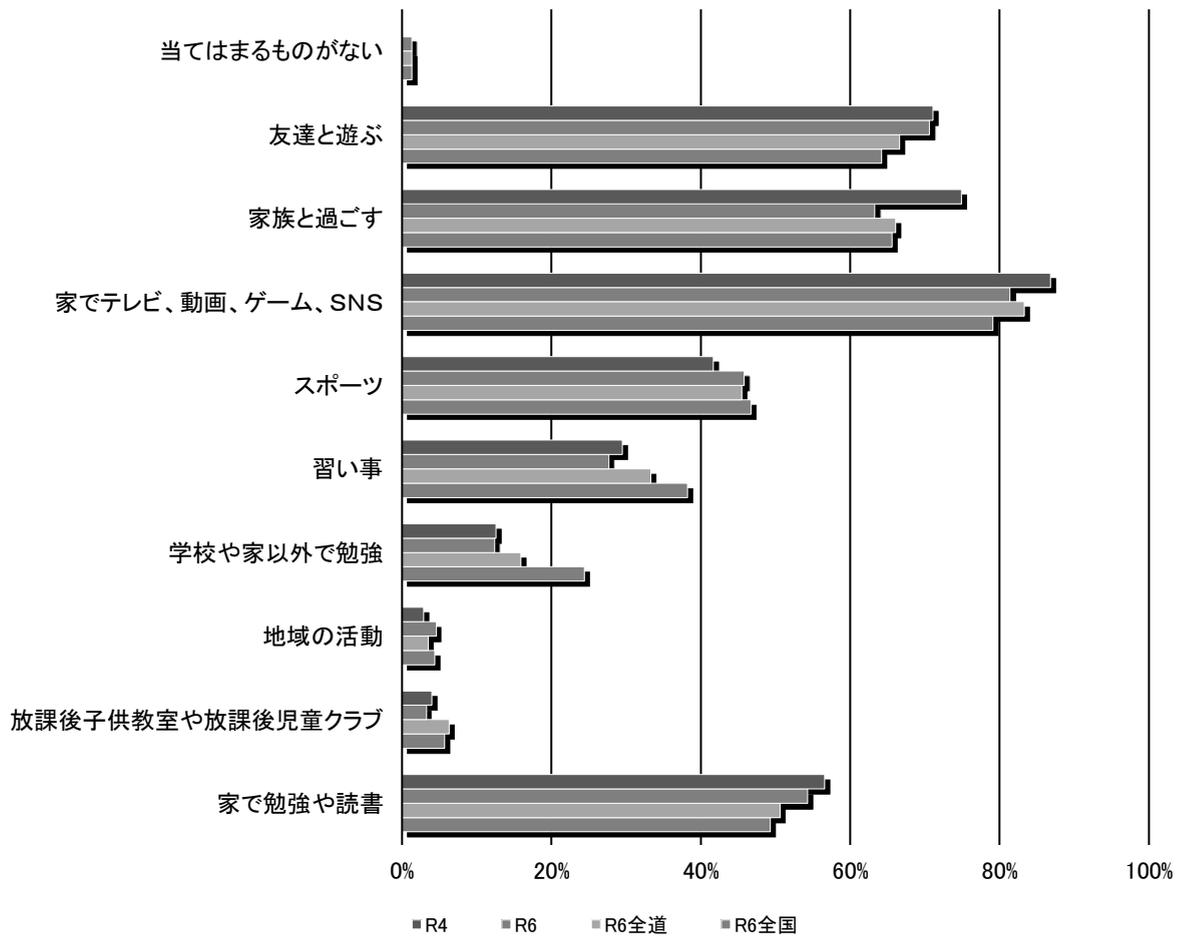
24 新聞を読んでいる。



25 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



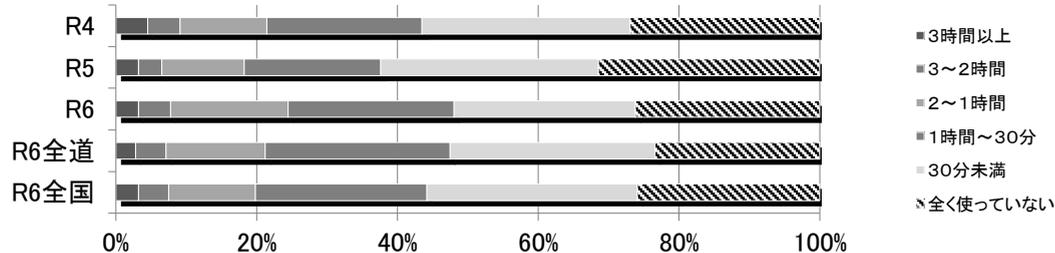
26 放課後や週末の過ごし方。



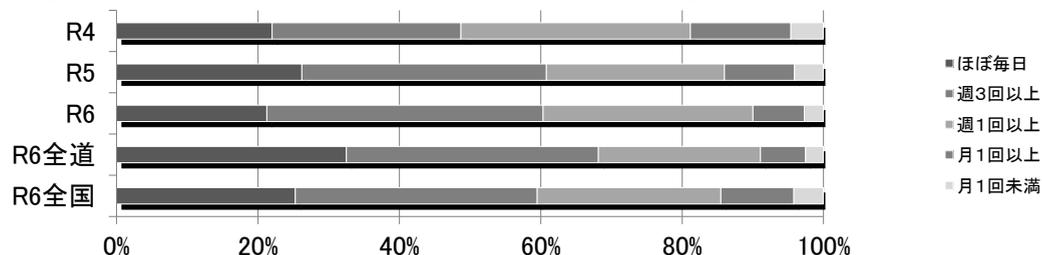
ICTの活用

【考察】 「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合」において、「週3回以上」と回答した割合が全国平均と同等であることから、日常的に授業で使用する頻度が増えている状況がうかがえる。しかし、「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていた」と回答した割合が全国平均を下回っている。今後は、児童の資質・能力の育成や、教科のねらいを達成するための一つの手立てとして、児童がICT機器を効果的に活用できるような授業改善が必要であるとうかがえる。

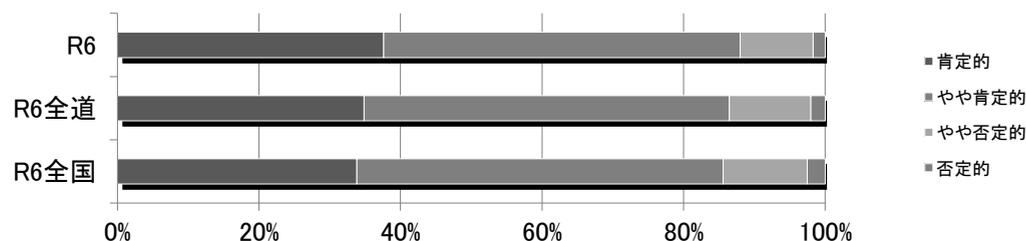
4 普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間。



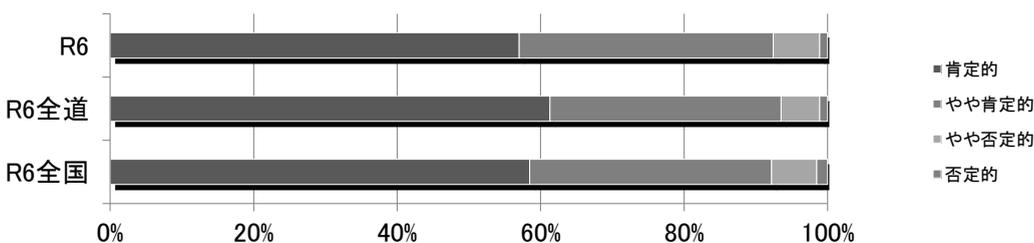
27 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合。



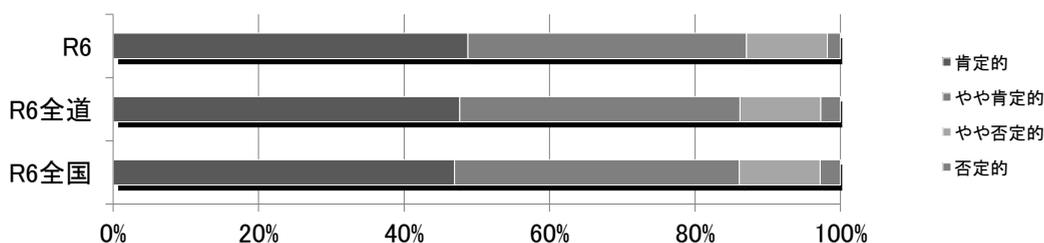
28-1 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができていた。（新設問）



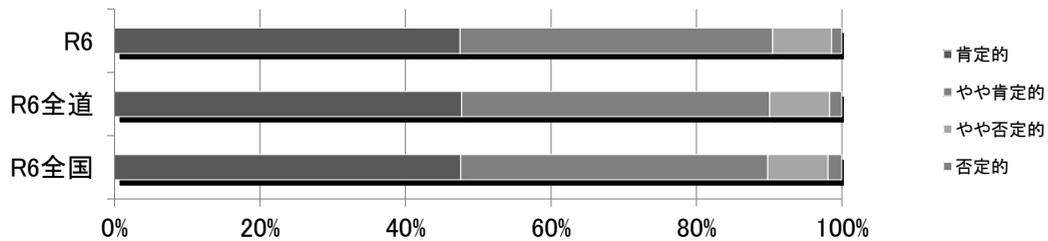
28-2 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、分からないことがあった時に、すぐに調べることができていた。（新設問）



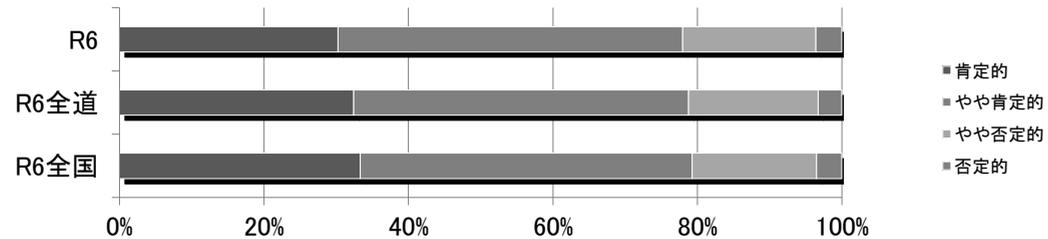
28-3 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、楽しみながら学習を進めることができていた。（新設問）



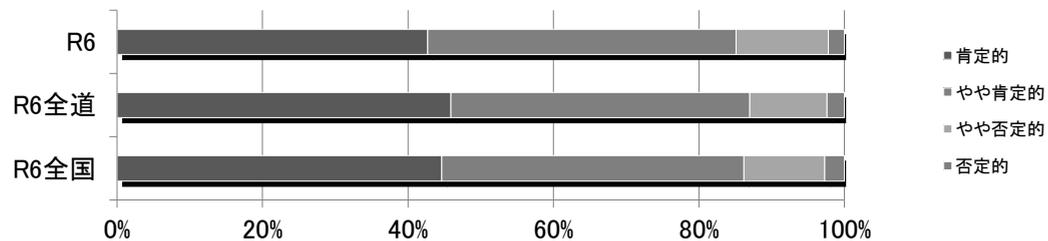
28-4 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かっていった。（新設問）



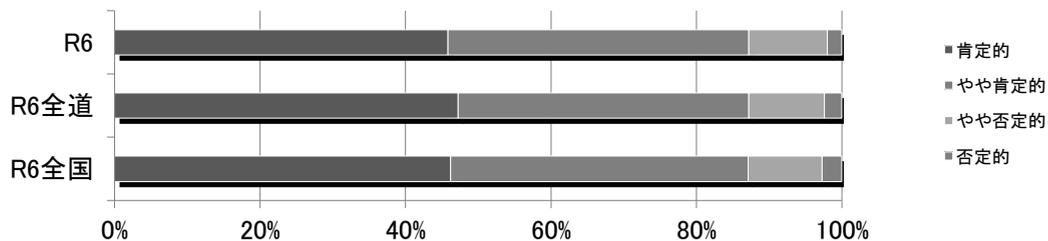
28-5 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていた。（新設問）



28-6 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなっていた。（新設問）



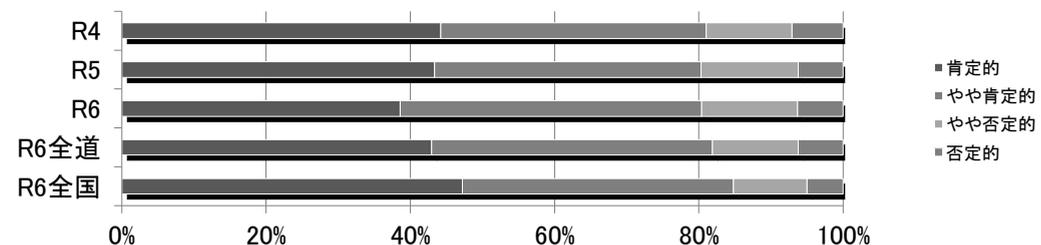
28-7 5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と協力しながら学習を進めることができていた。（新設問）



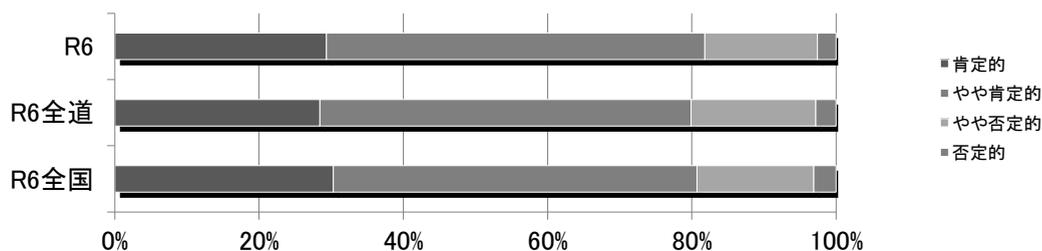
学校生活

【考察】 ほぼ全ての設問において、肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回る結果であるといえる。特に、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した割合が全国平均を上回っている。しかし、「学校に行くのは楽しい」では、否定的な回答をした児童が約20%程度いることから、児童にとって学校生活が安心感や充実感を感じられるよう、主体的な学びを実現した授業改善の推進や、個を大切にされた支援の充実を図る必要があるとかがえる。

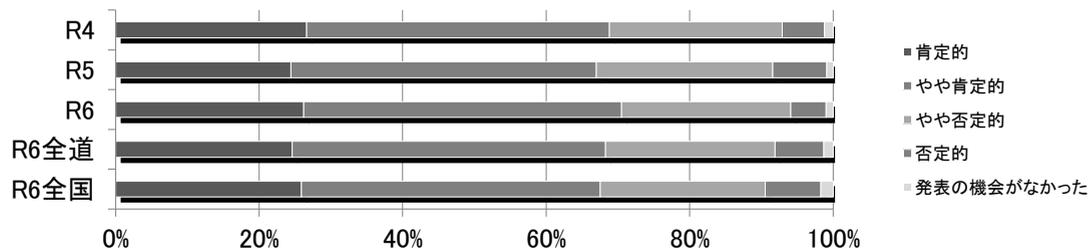
16 学校に行くのは楽しい。



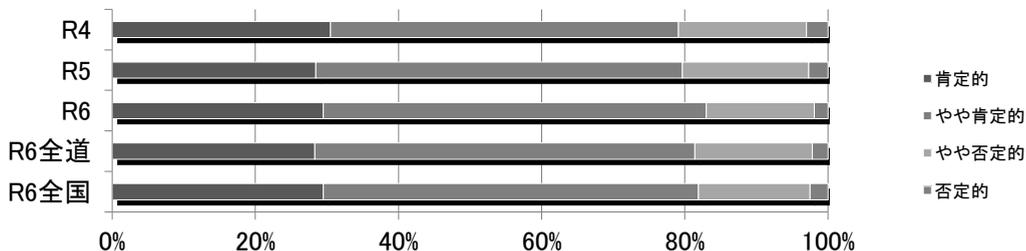
20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。(新設問)



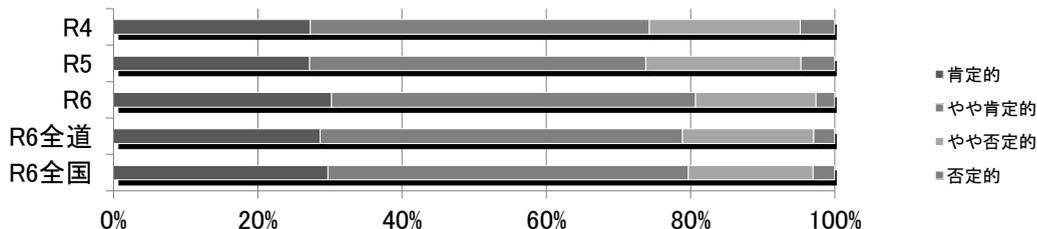
29 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



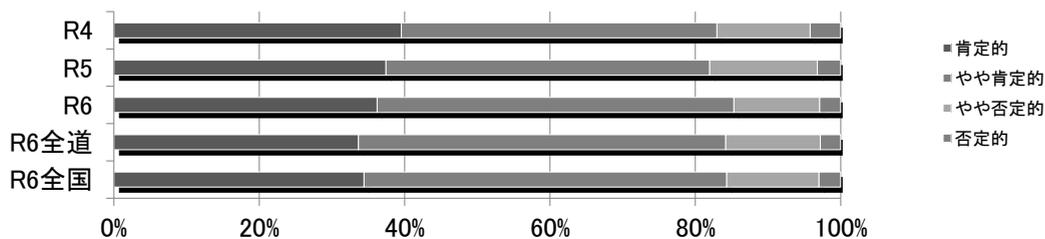
30 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



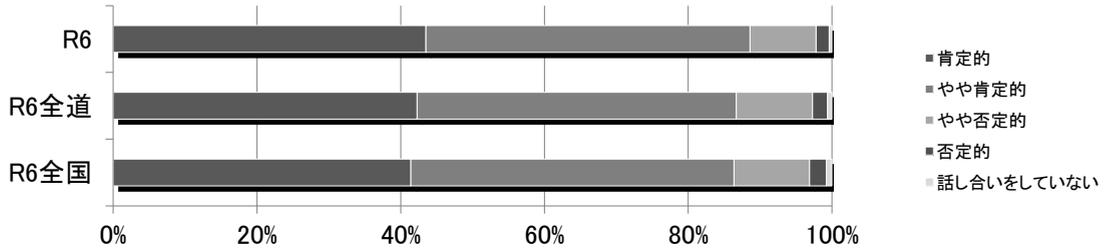
31 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



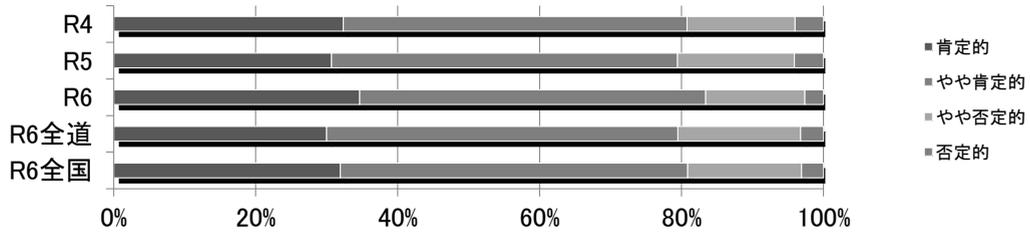
32 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



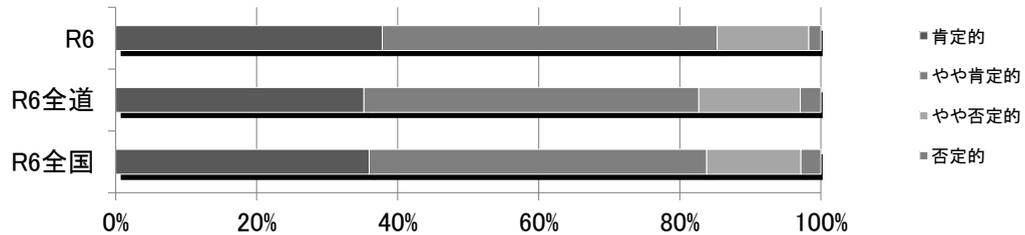
33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。（新設問）



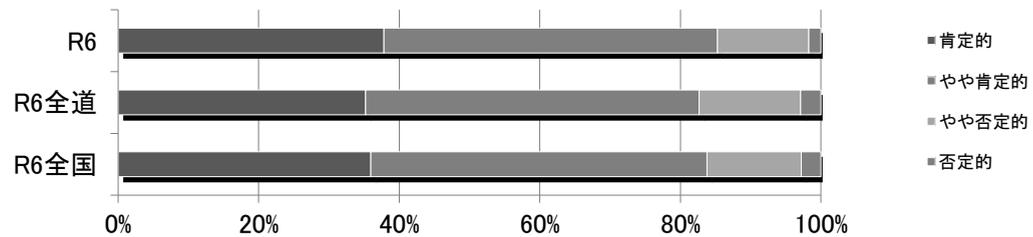
34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。



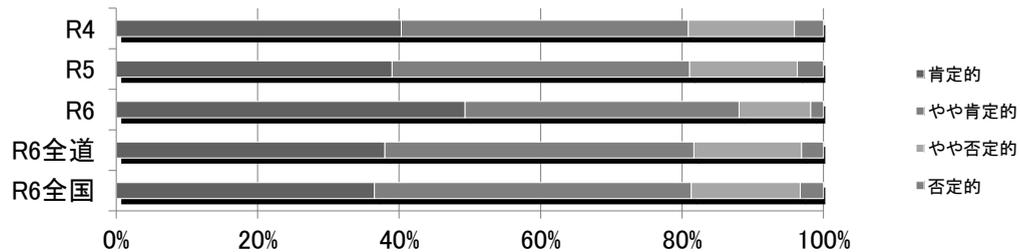
35 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。（新設問）



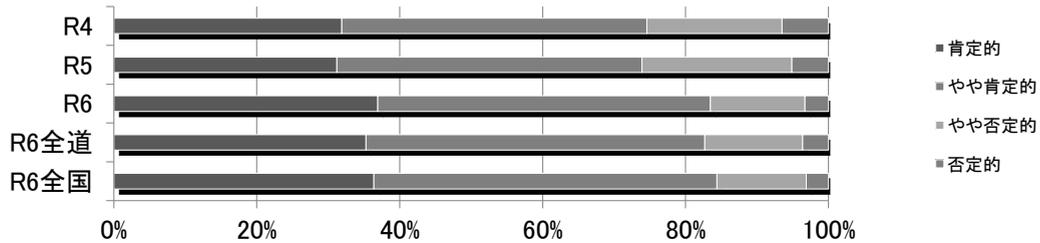
37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。（新設問）



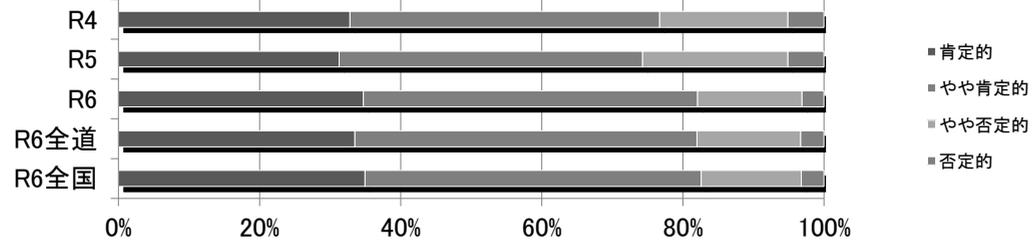
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立て、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



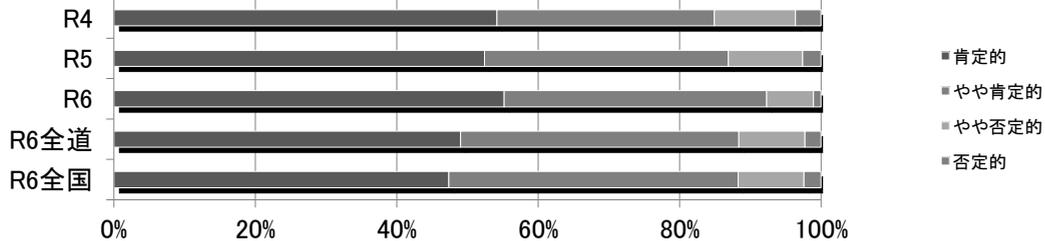
39 学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。



40 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

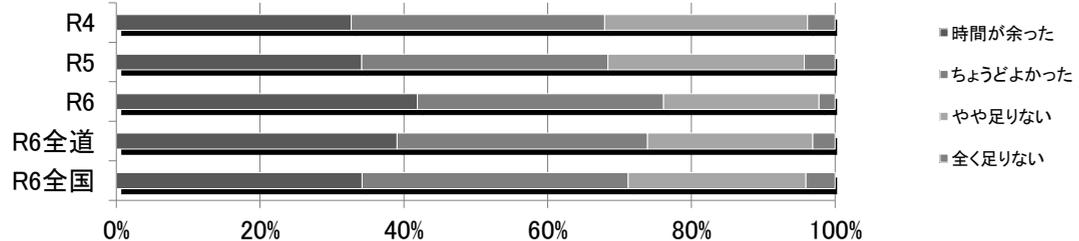


41 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

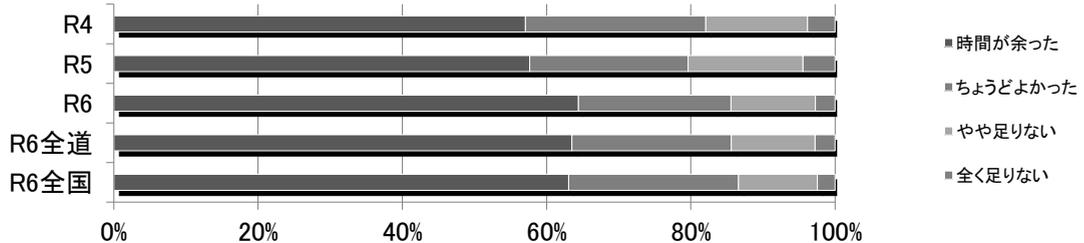


調査問題の解答時間

国(2) 調査問題 (国語) の解答時間は十分だった。



算(2) 調査問題 (算数) の解答時間は十分だった。



令和6年度全国学力・学習状況調査生徒質問（中学3年生徒）調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

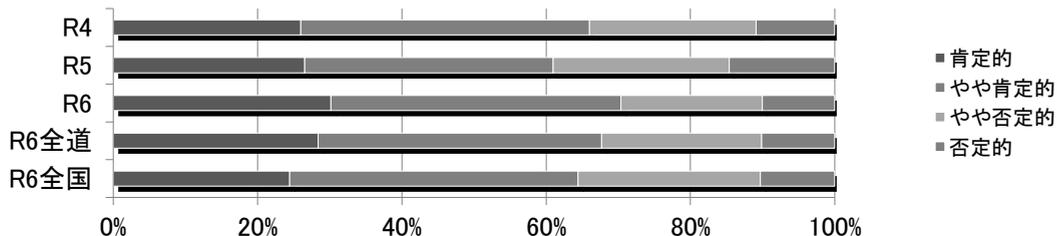
中学3年生徒

- ①：肯定的な回答（している・当てはまる・そう思う）
- ②：やや肯定的な回答（どちらかといえば、している・当てはまる・そう思う）
- ③：やや否定的な回答（あまりしていない、どちらかといえば、当てはまらない・そう思わない）
- ④：否定的な回答（まったくしていない・当てはまらない・そう思わない）

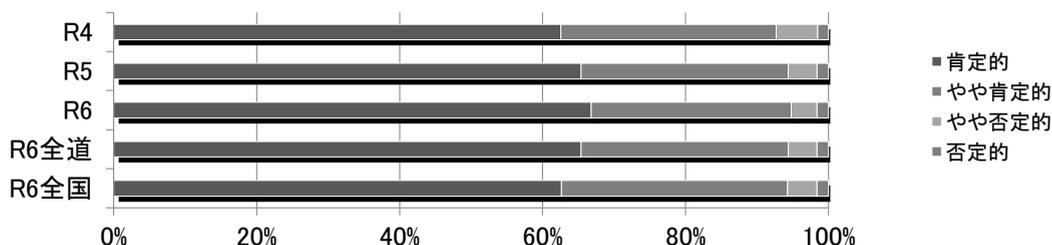
学習に対する興味・関心等 (国語)

【考察】 すべての設問において、肯定的に回答した割合が全国平均と同等または上回っている。特に、「国語の勉強は好き」「国語の授業の内容はよく分かる」では、肯定的に回答した割合が全国平均を大きく上回っている。しかし、「記述式」すべての問題で正答率が全国平均を下回っている。自分の考えを伝える際には、根拠を文章の中に記述して書くことを繰り返し指導をする必要があると
うかがえる。

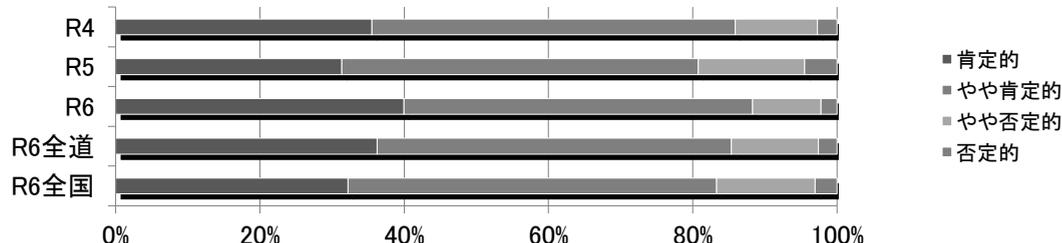
42 国語の勉強は好き。



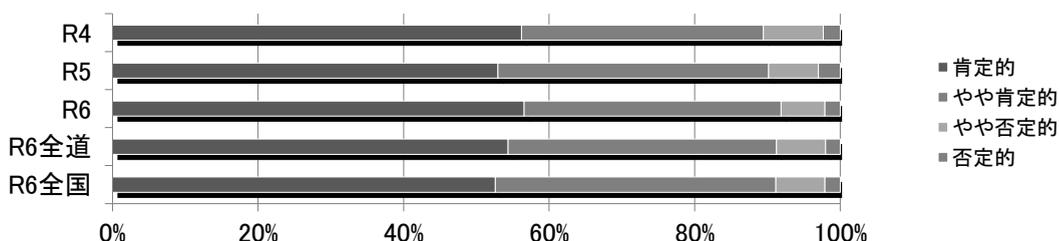
43 国語の勉強は大切だと思う。



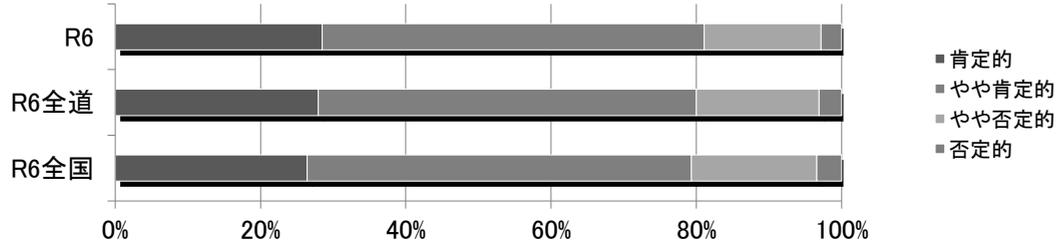
44 国語の授業の内容はよく分かる。



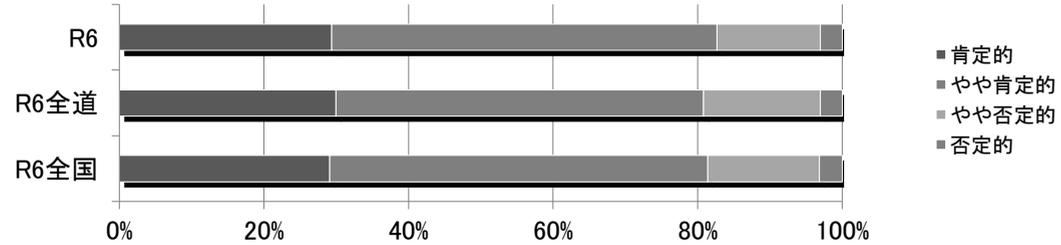
45 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



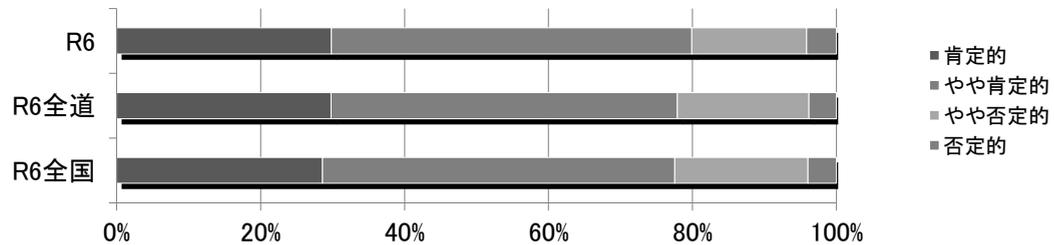
46 国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している。(新設問)



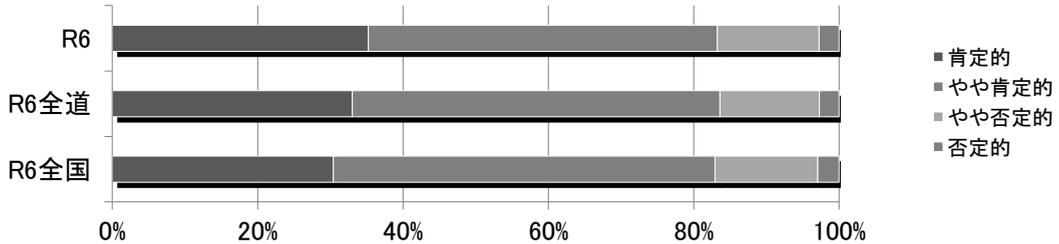
47 国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(新設問)



48 国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている。(新設問)



49 国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(新設問)

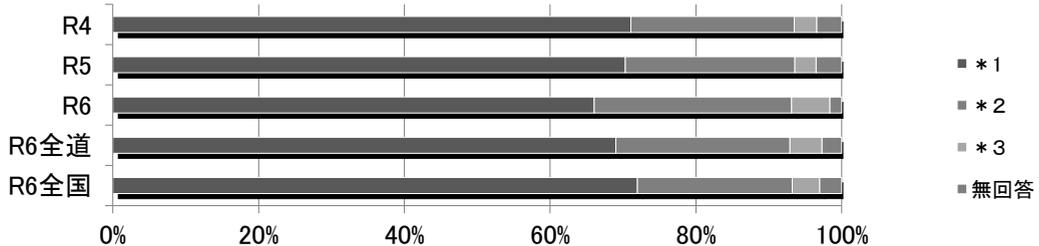


国(1) 今回の国語の問題について、文章を書く問題でどのように解答したか。

* 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。

* 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。

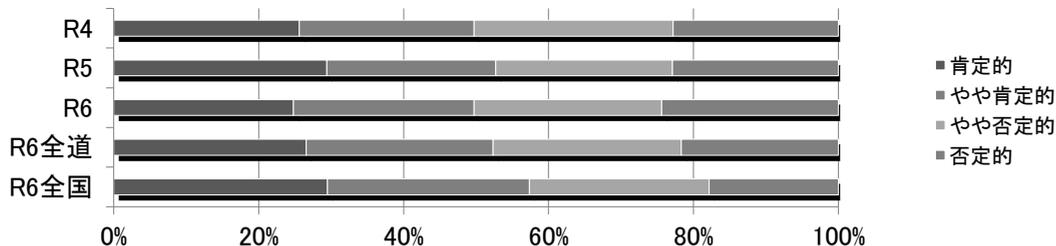
* 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



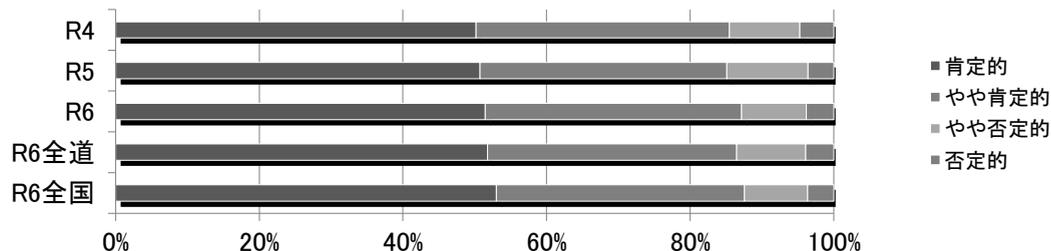
学習に対する興味・関心等 (数学)

【考察】 ほぼすべての設問において、肯定的に回答した割合が全国平均を下回っている。約85%の生徒が「数学の勉強は大切だと思う」と肯定的に回答しているが、「数学の勉強は好き」では、否定的に回答した割合が50%を超えている。このような結果から数学の学習に対する関心・意欲の面について、昨年度に引き続き課題がみられた。生徒が主体的に取り組めるように、身の回りの事象を学習内容と結び付け、学ぶ必要性や必然性を生徒自身感じられるような授業改善が必要であるとうかがえる。

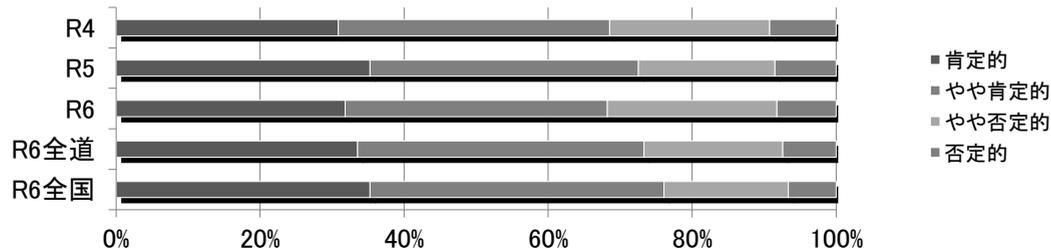
50 数学の勉強は好き。



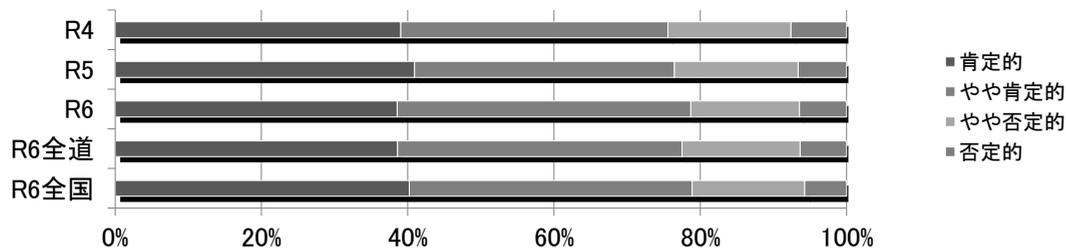
51 数学の勉強は大切だと思う。



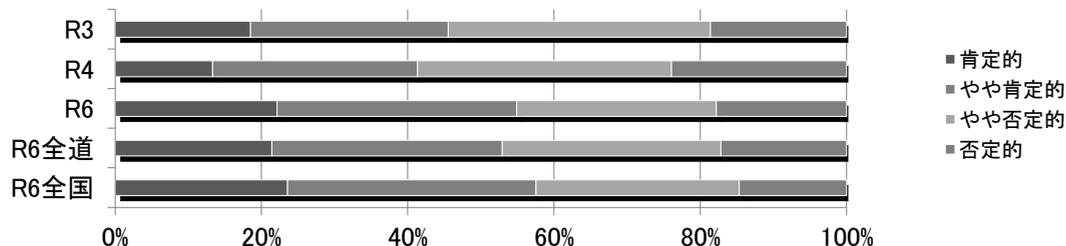
52 数学の授業の内容はよく分かる。



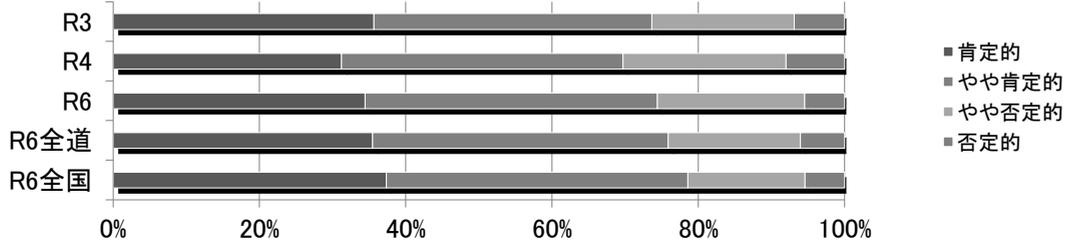
53 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



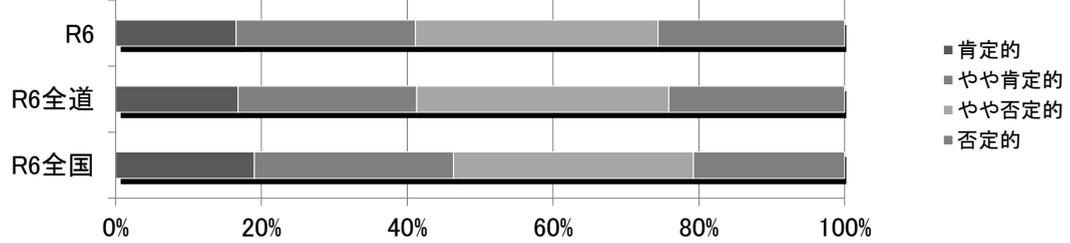
54 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。



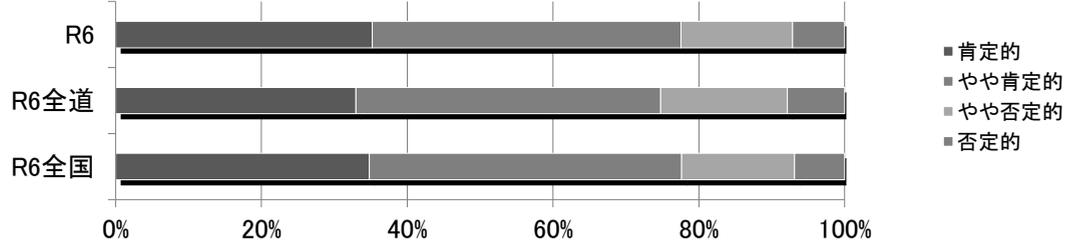
55 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。



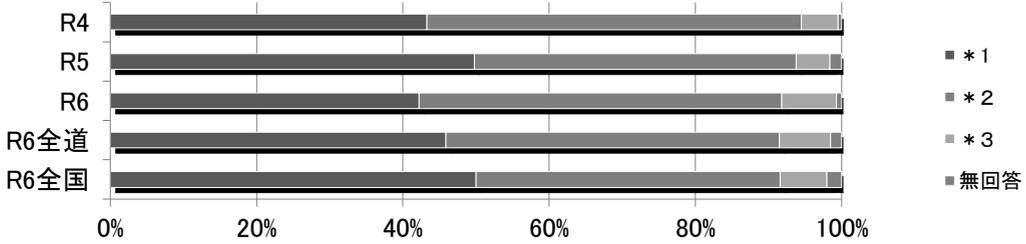
56 数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。(新設問)



57 数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている。(新設問)



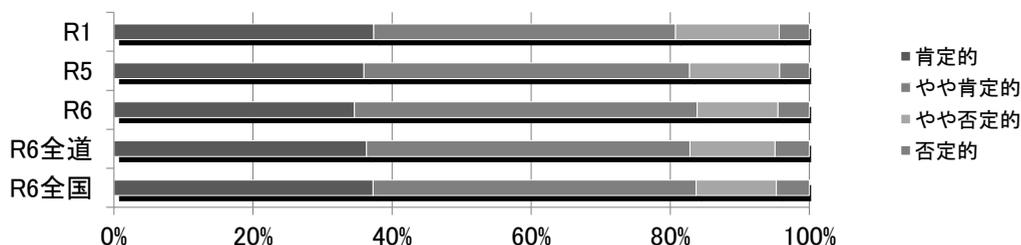
- 数(1) 今回の数学の問題について、言葉や数、式を使って説明する問題でどのように解答したか。
 * 1 : 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
 * 2 : 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。
 * 3 : 書く問題は全く解答しなかった。



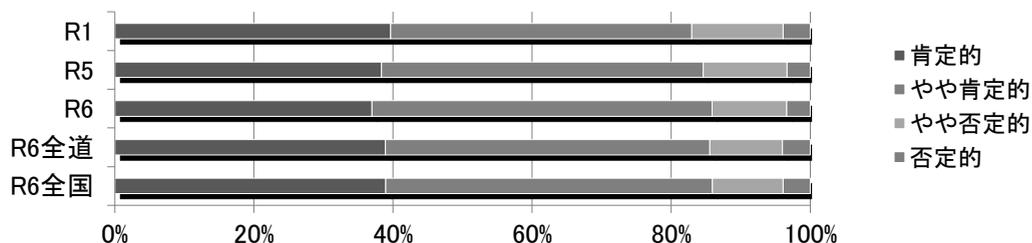
学習に対する興味・関心等 (英語)

【考察】 「1、2年生のときの授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」と肯定的に回答した割合が全国平均を大きく下回っている。発表における英語表現の正確性を高めるために、話したいことを書いて確認させることが大切であると考えられる。文章を生徒同士で読み合わせ、文法的な間違いに気付かせたり、友達の表現から学び合ったりするような授業改善が必要であるとうかがえる。

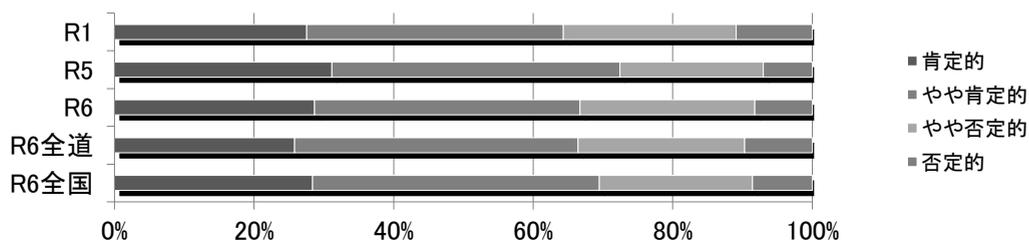
61 1、2年生のときの授業では、英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていた。



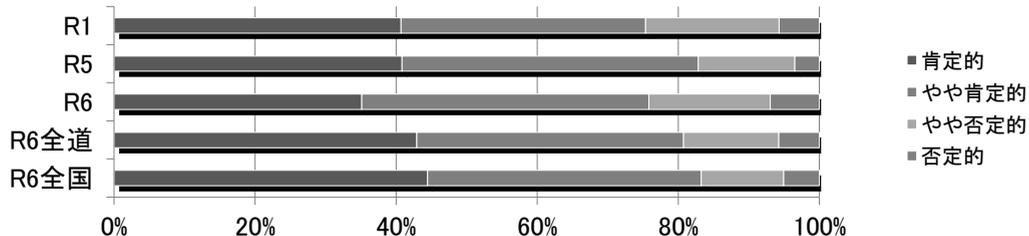
62 1、2年生のときの授業では、英語を読んで概要や要点をとらえる活動が行われていた。



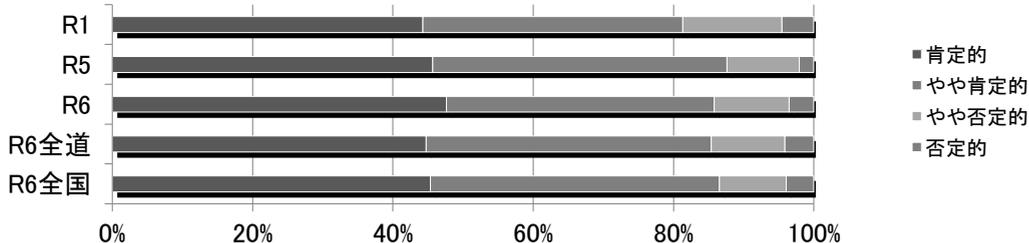
63 1、2年生のときの授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝えあう活動が行われていた。



64 1、2年生のときの授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた。



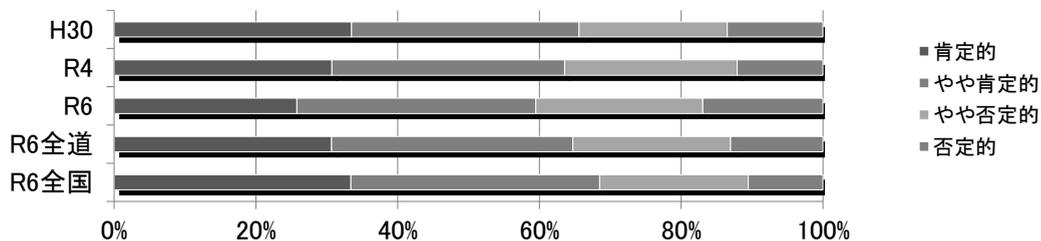
65 1、2年生のときの授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた。



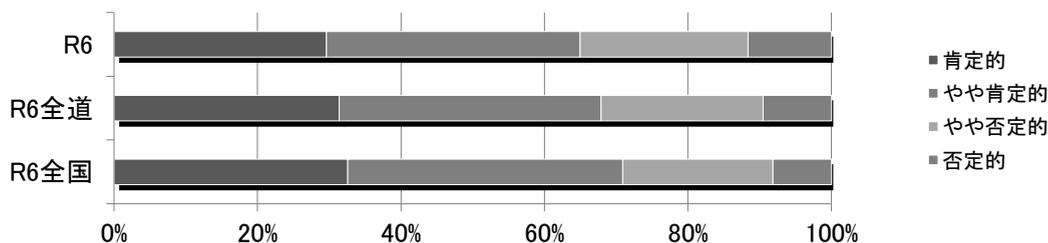
学習に対する興味・関心等 (理科)

【考察】「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した割合が全国平均を下回っているが、令和4年度と比べると肯定的な回答をした生徒が増えている。「理科の勉強は好き」では、否定的な回答をした生徒が40%を超えている。身に付けた知識と日常生活における経験を関連付け、身近な事象の中に問題を見いだして課題を設定したり、科学的に探究する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めたりする必要があるとかがえる。

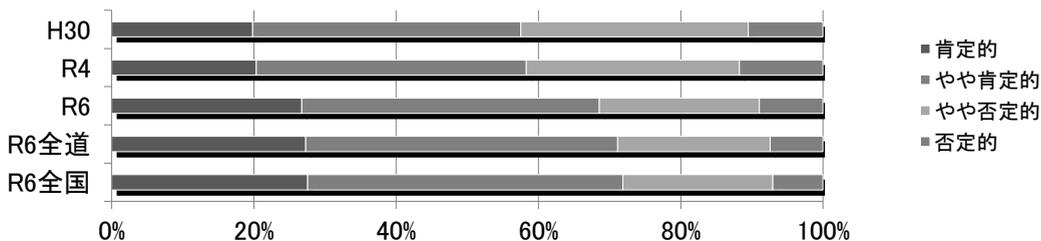
58 理科の勉強は好き。



59 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある。(新設問)



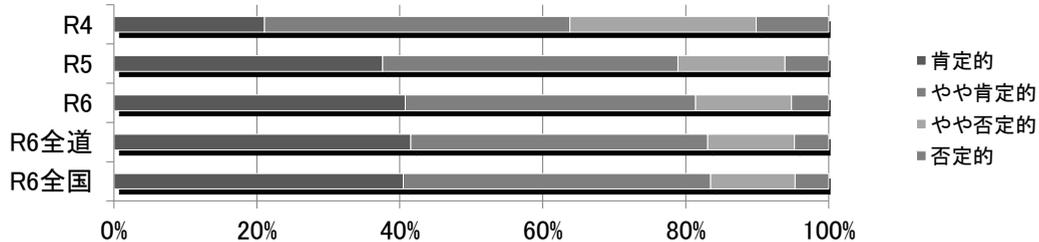
60 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



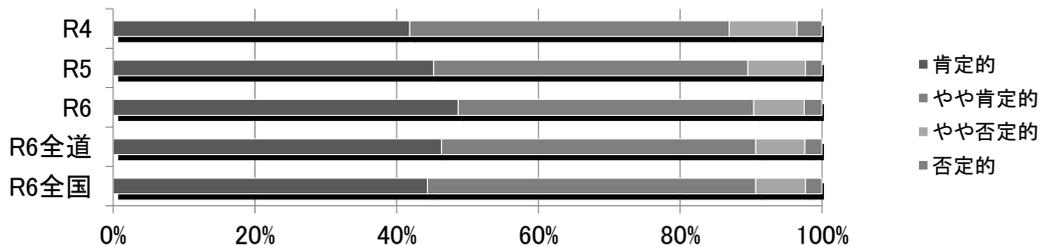
規範意識・自己有用感

【考察】 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した割合が全国平均を上回っている。今後も、学校の教育活動全体を通して道徳教育の充実に取り組むとともに、「苦小牧市いじめ防止基本方針」や、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応についての取組を充実させる必要があるとかがえる。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と否定的に回答した生徒が約40%程度いることから、学校の教育活動全体でSOSの出し方に関する教育を推進していく必要があるとかがえる。

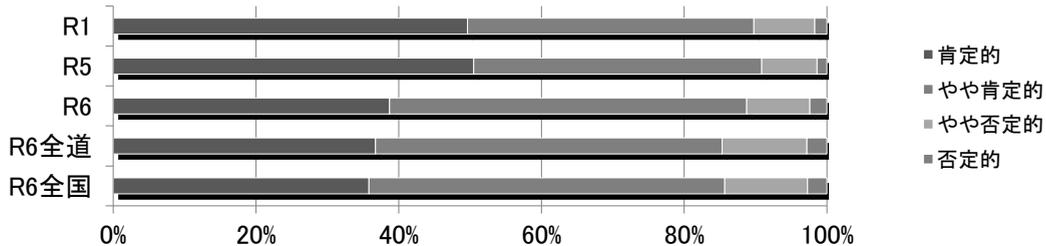
9 自分には、よいところがあると思う。



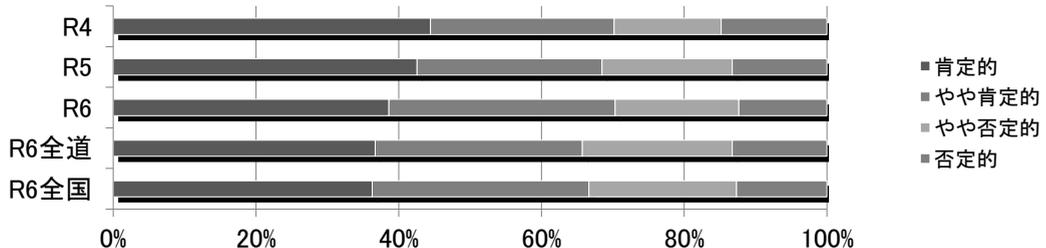
10 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。



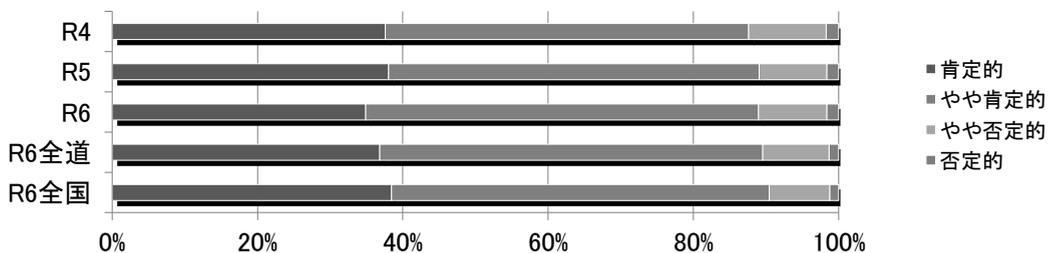
36 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。



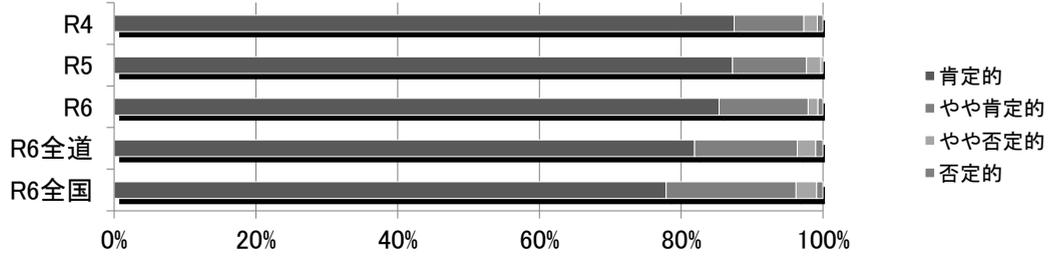
11 将来の夢や目標を持っている。



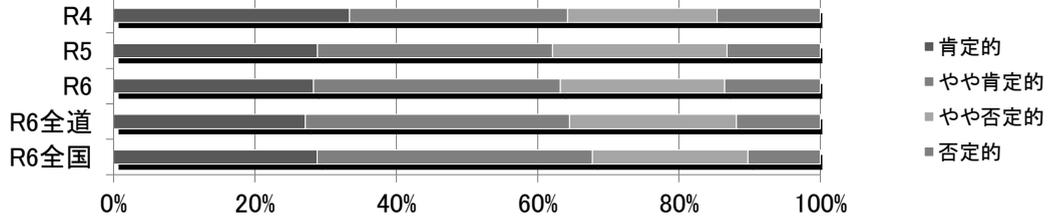
12 人が困っているときは、進んで助けている。



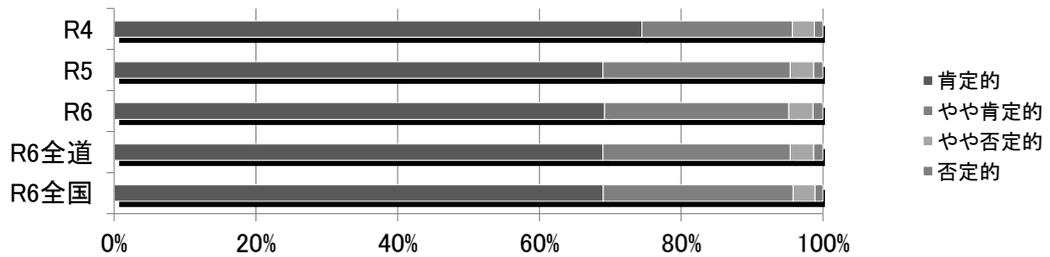
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



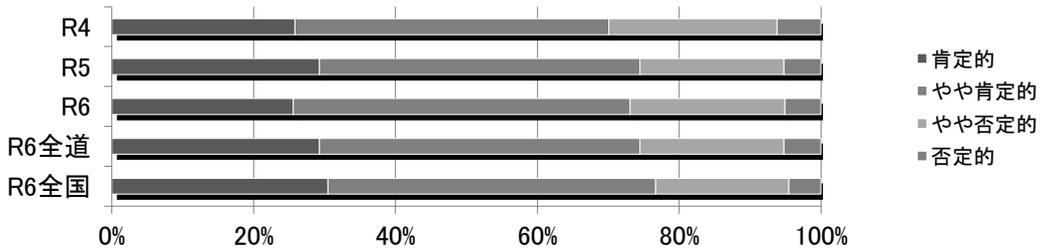
14 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



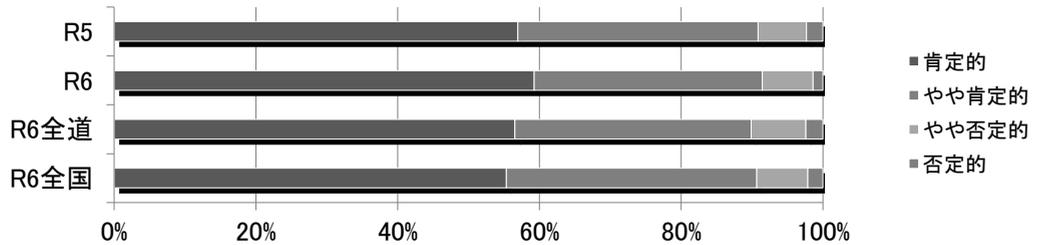
15 人の役に立つ人間になりたいと思う。



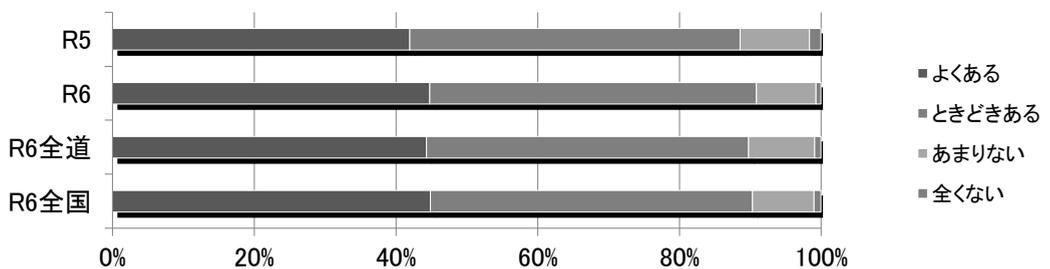
17 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



18 友達関係に満足している。



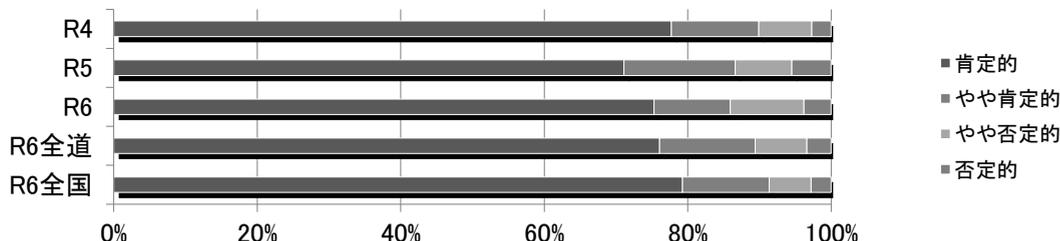
19 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。



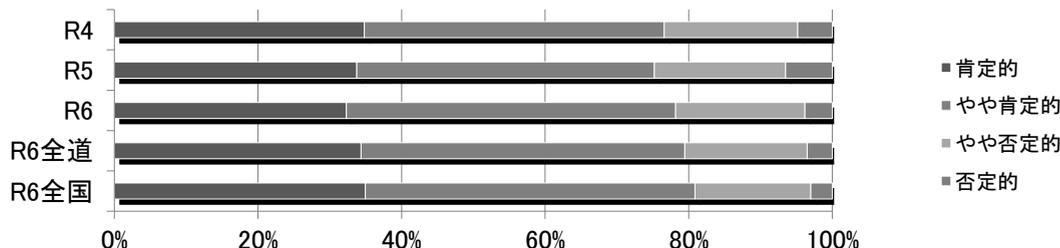
生活習慣・学習習慣・
地域や社会への関心

【考察】 普段（月～金）や休日における、「学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間」では、2時間以上学習していると回答した割合が全国平均を大きく下回っている。また、昨年度より「全くしない」の回答率に上昇傾向が見られる。家庭と連携して、生徒が節度をもった生活習慣を身に付けるとともに、学校全体の共通理解のもとに家庭学習の成果の点検・評価の仕方等を工夫し、生徒の自主的・自発的な取組を促していく必要があるとかがえる。

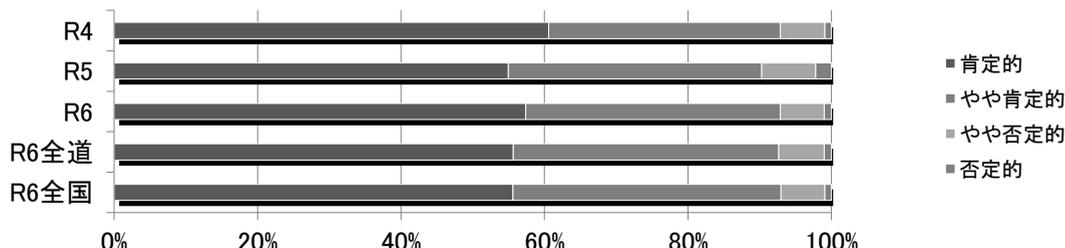
1 朝食を毎日食べている。



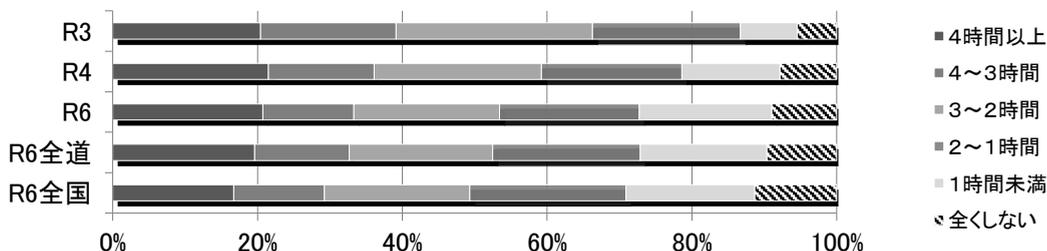
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



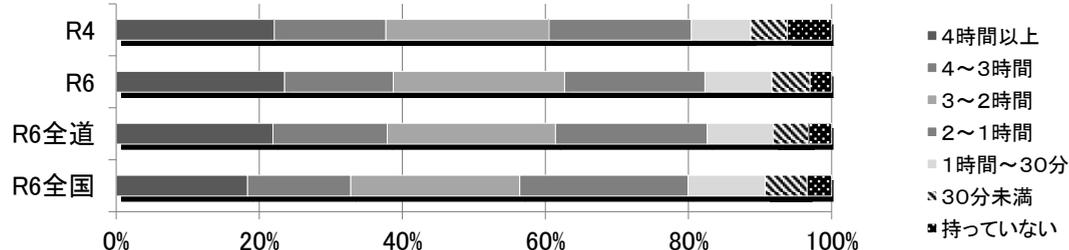
3 毎日、同じくらいの時刻に起きている。



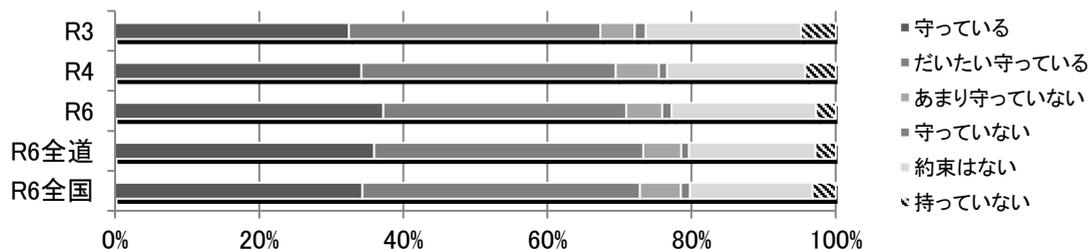
5 普段（月～金）、1日当たりのテレビゲームの利用時間。（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）



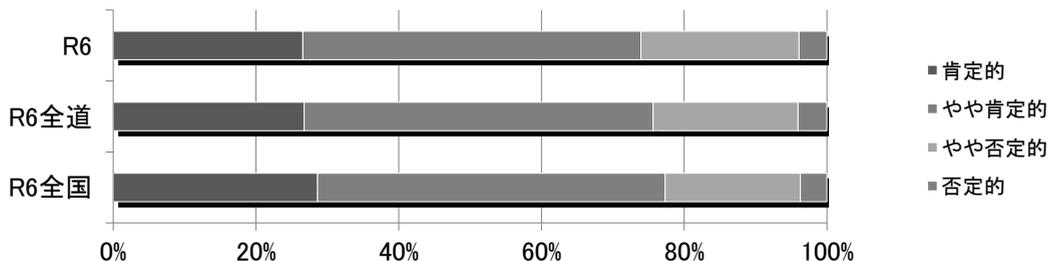
6 普段（月～金）、1日当たりのSNSや動画視聴の時間。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームの時間は含めない）



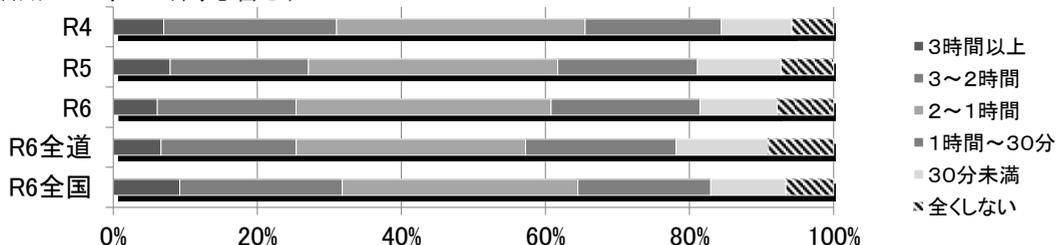
7 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。



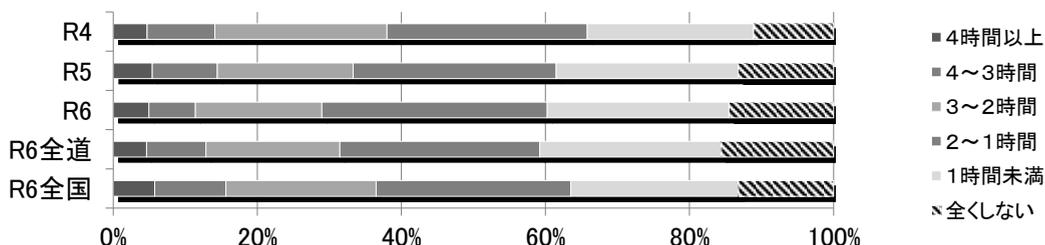
8 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。(新設問)



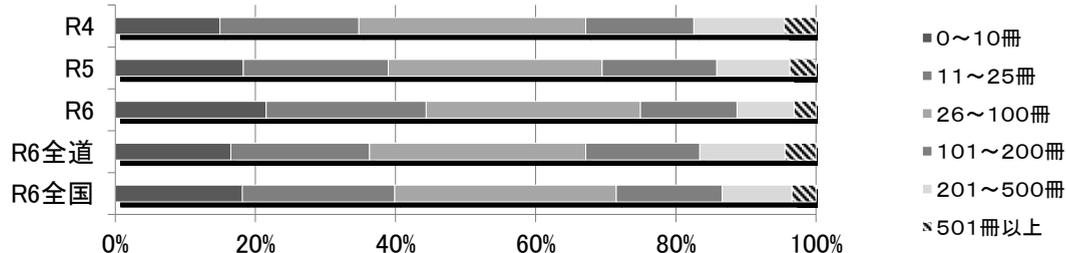
21 普段(月～金)、学校の授業時間以外の1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



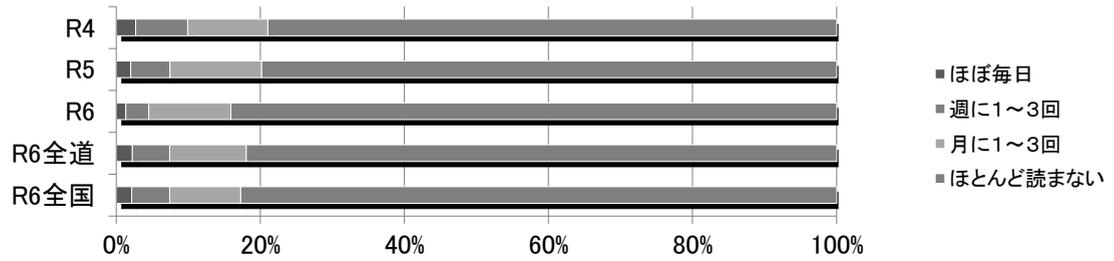
22 休み(土日等)の日の、1日当たりの学習時間。(学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



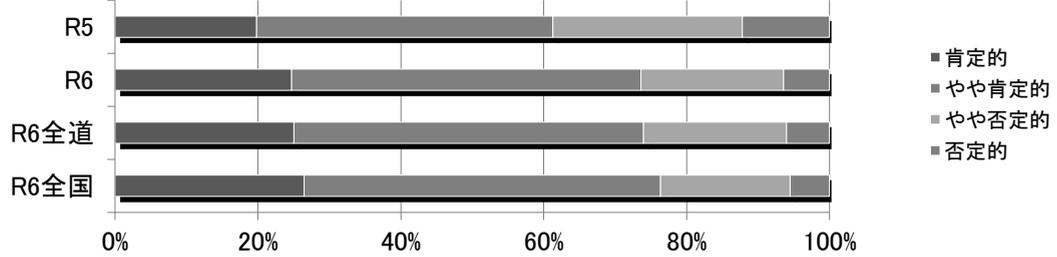
23 家にある本の冊数。(雑誌、新聞、教科書は除く)



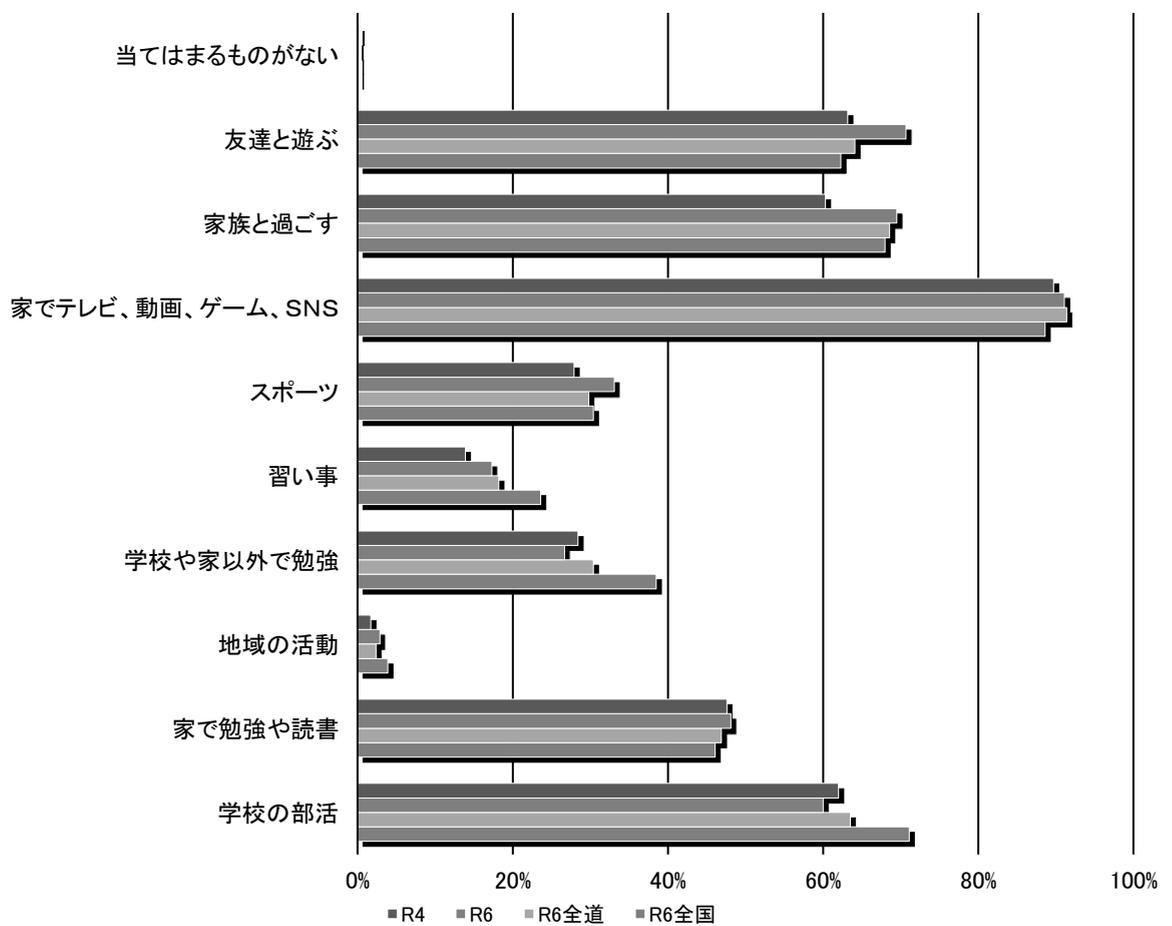
24 新聞を読んでいる。



25 地域や社会をよくするために何かしてみたい。



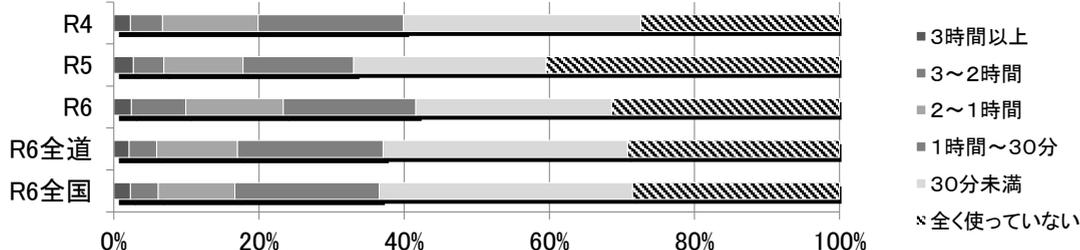
31 放課後や週末の過ごし方。



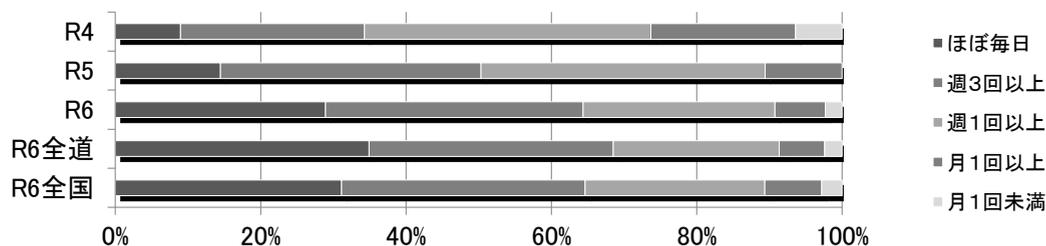
ICTの活用

【考察】「普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間」では、1時間以上と回答した割合が全国平均を上回っている。しかし、「1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていた」と回答した割合は、全国平均を大きく下回っている。今後は、「整理・分析」場面での情報の可視化、「まとめ・表現」場面での動画やプレゼン作成など、あらゆる場面で生徒自身がICT機器を活用できるような授業改善が必要であるとうかがえる。

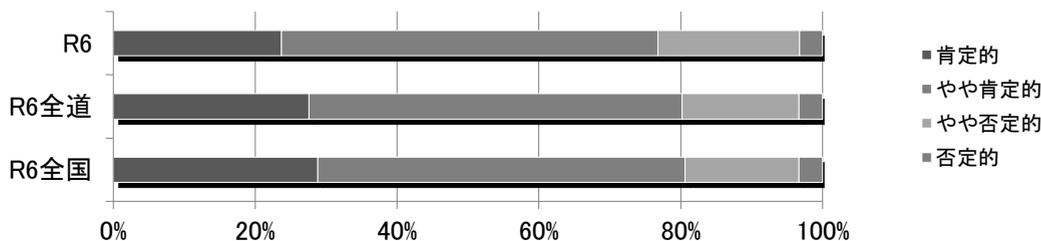
4 普段（月～金）、1日にスマホやコンピュータ等のICT機器を勉強のために使用する時間。



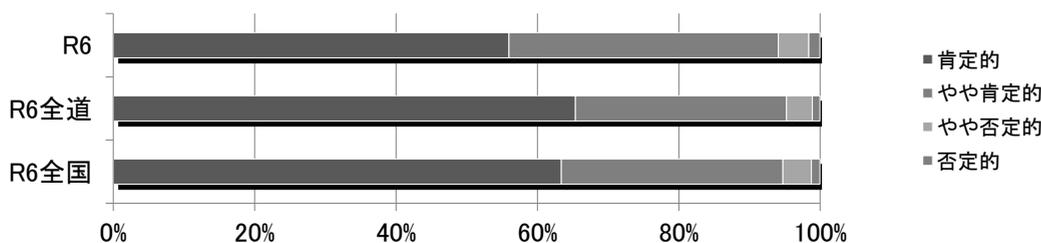
27 1、2年生のときに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を使用した割合。



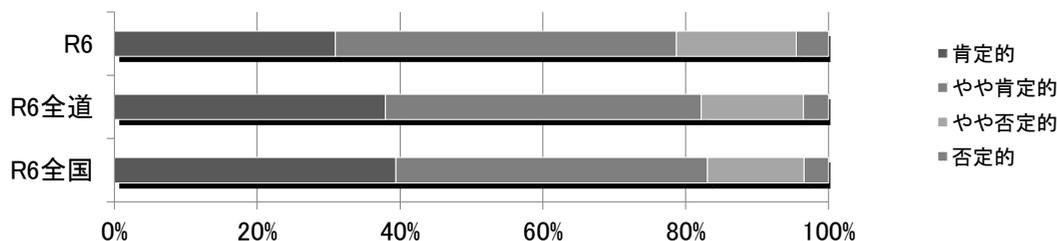
28-1 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができていた。（新設問）



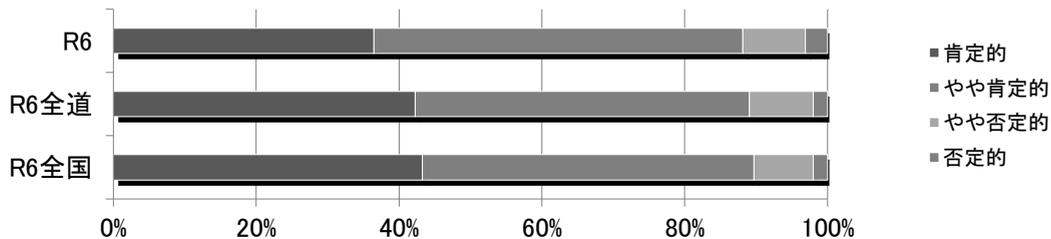
28-2 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、分からないことが、あった時にすぐに調べることができていた。（新設問）



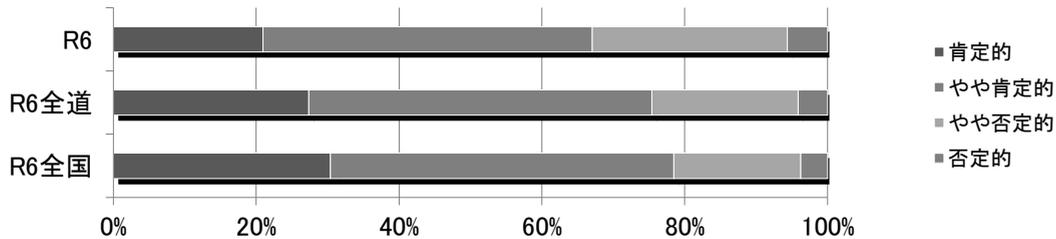
28-3 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、楽しみながら学習を進めることができていた。（新設問）



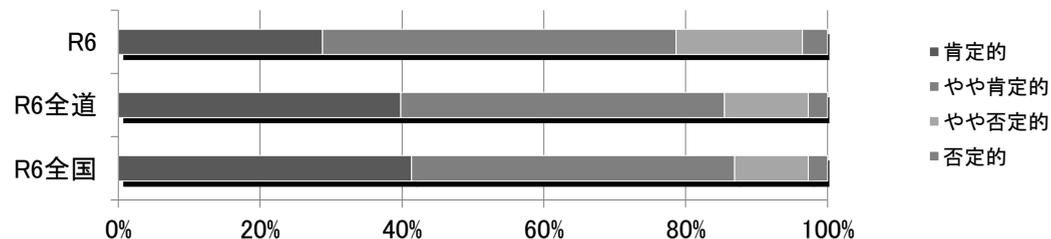
28-4 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かっていった。（新設問）



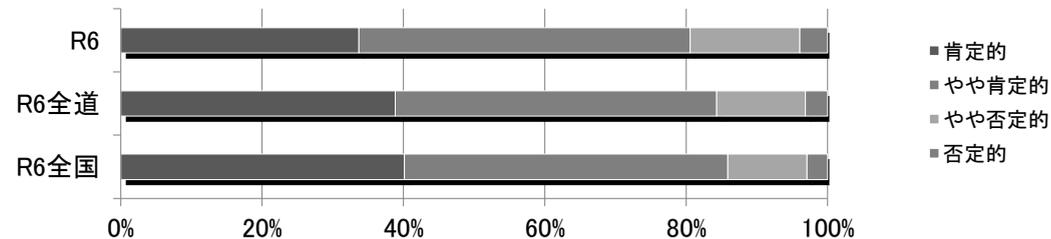
28-5 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていた。（新設問）



28-6 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなっていた。（新設問）



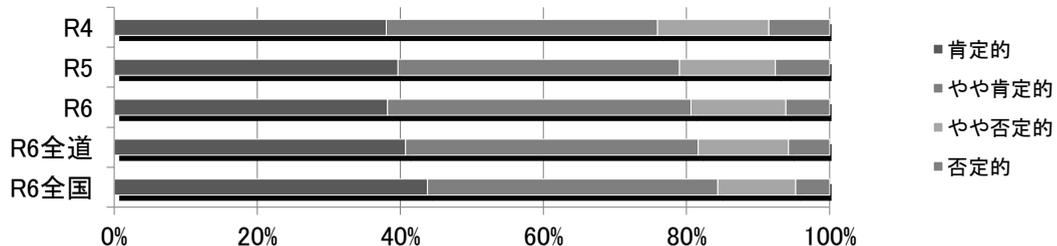
28-7 1、2年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と協力しながら学習を進めることができていた。（新設問）



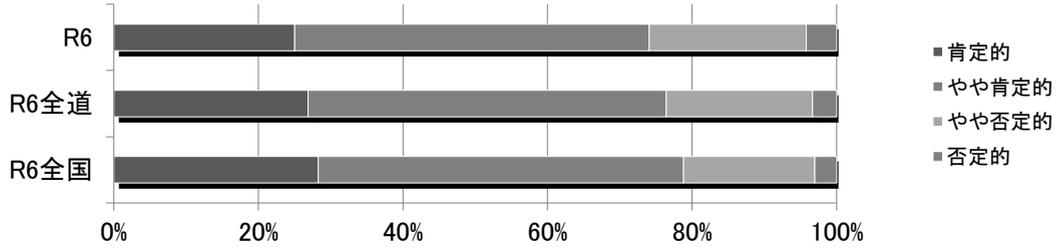
学校生活

「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した割合が全国平均を上回っている。生徒自身の考えを広げ、見通しをもって課題解決を図る学習活動が推進されていることが考えられる。一方、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」では、全国平均を下回っている。日常的な授業において、生徒自身が学びの過程や変容を自覚できる振り返りの充実が必要であるとうかがえる。

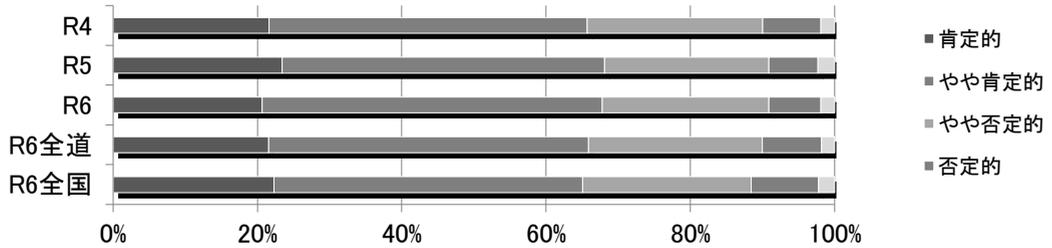
16 学校に行くのは楽しい。



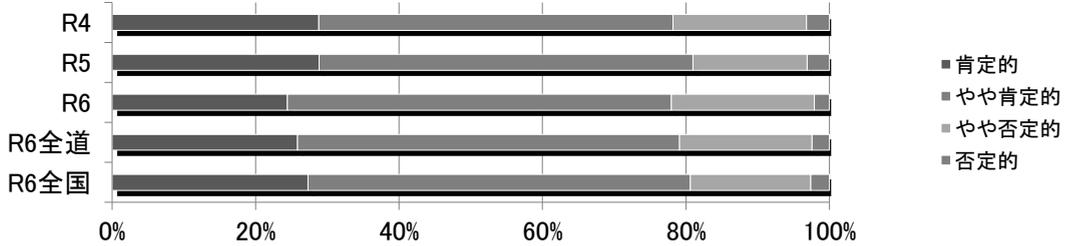
20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。(新設問)



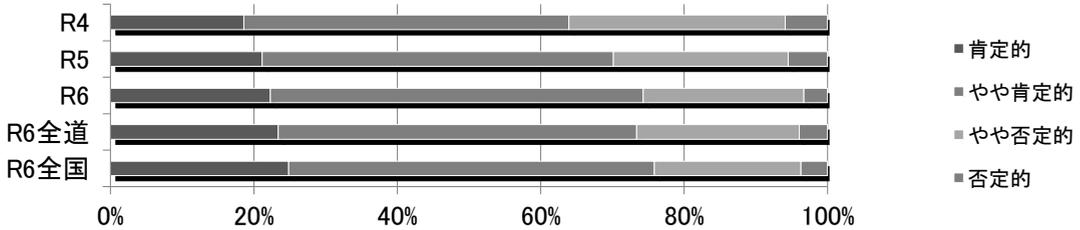
29 1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。



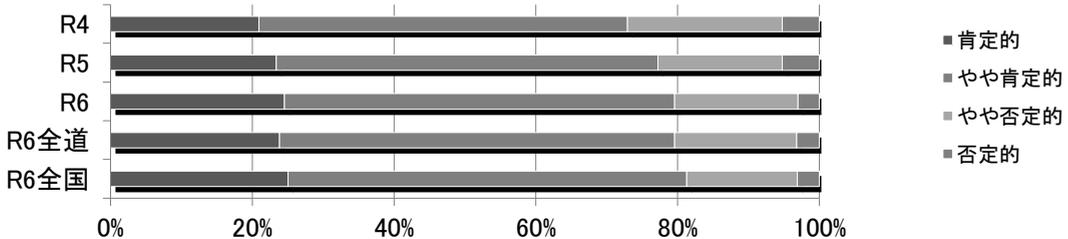
30 1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



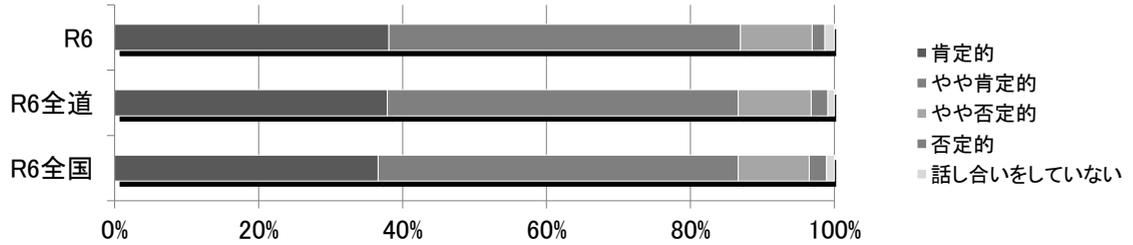
31 1、2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。



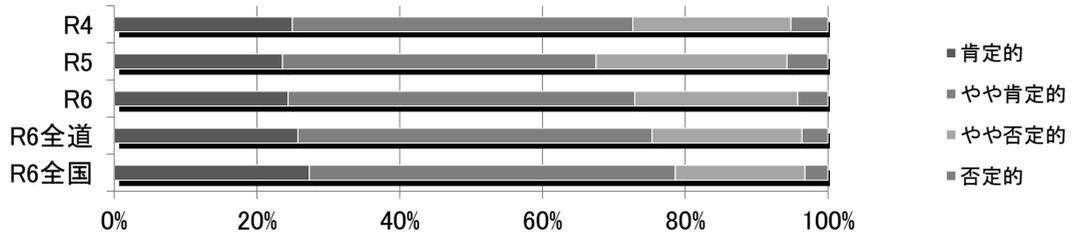
32 1、2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。



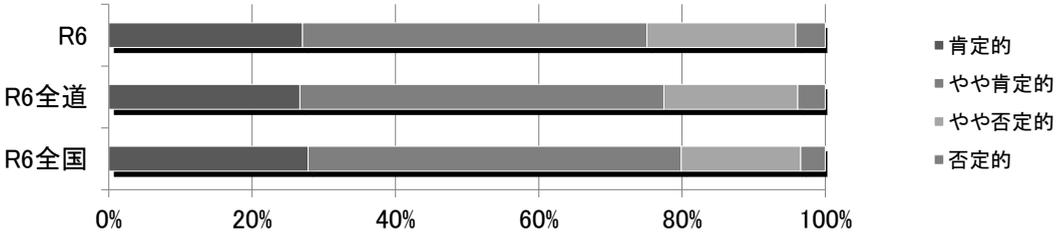
33 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。（新設問）



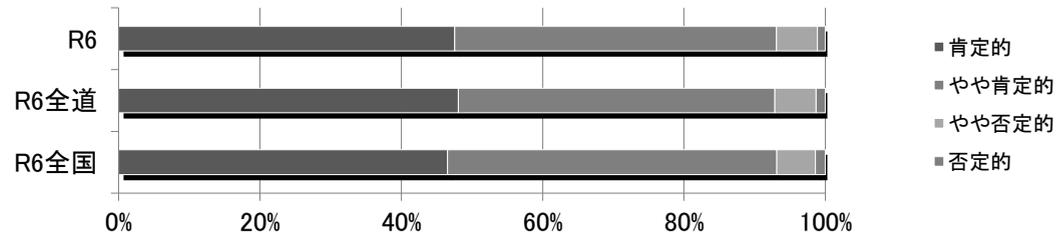
34 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。



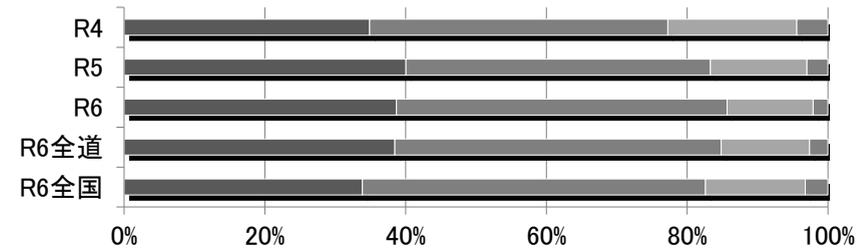
35 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。（新設問）



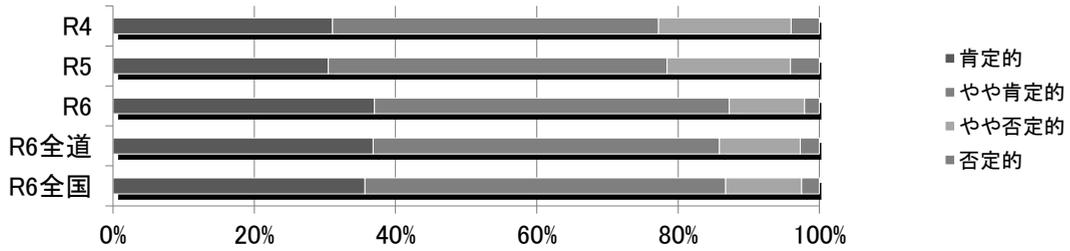
37 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。（新設問）



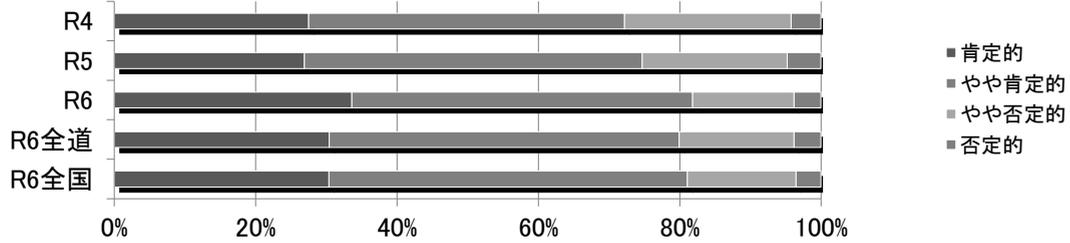
38 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



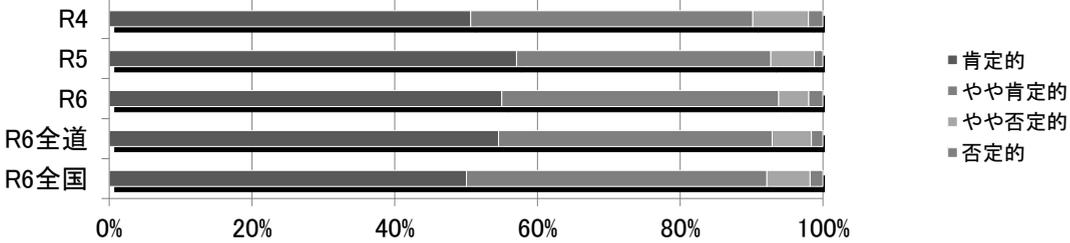
39 学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



40 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

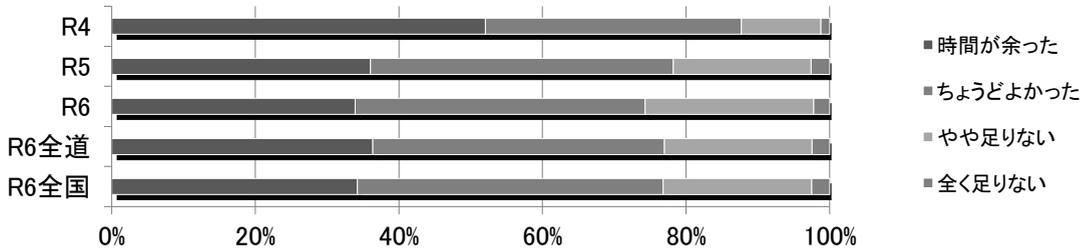


41 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

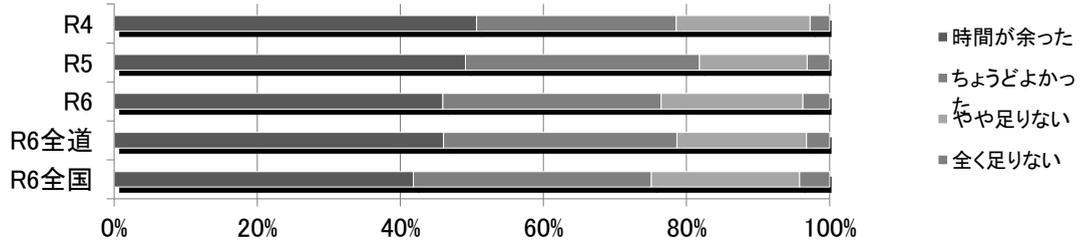


調査問題の解答時間

国(2) 調査問題 (国語) の解答時間は十分だった。



数(2) 調査問題 (数学) の解答時間は十分だった。



令和6年度全国学力・学習状況調査学校質問調査の結果と考察

苫小牧市教育委員会

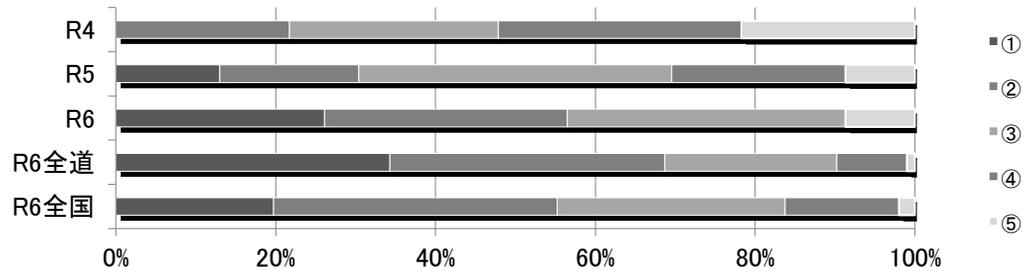
学力向上に向けた取組

〈ICTの活用〉

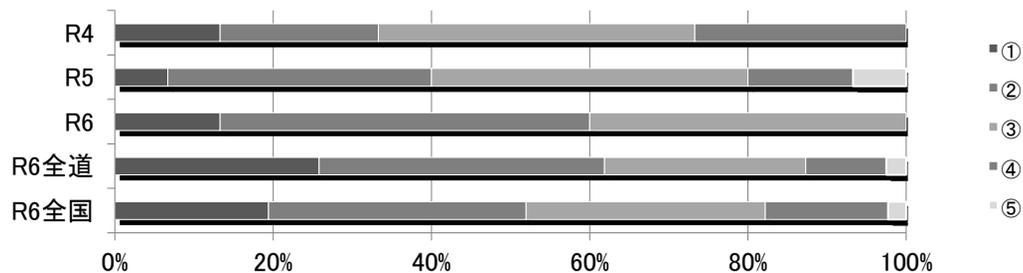
- ◆ 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

①ほぼ毎日 ②週3回以上 ③週1回以上 ④月1回以上 ⑤月1回未満

【小学校】



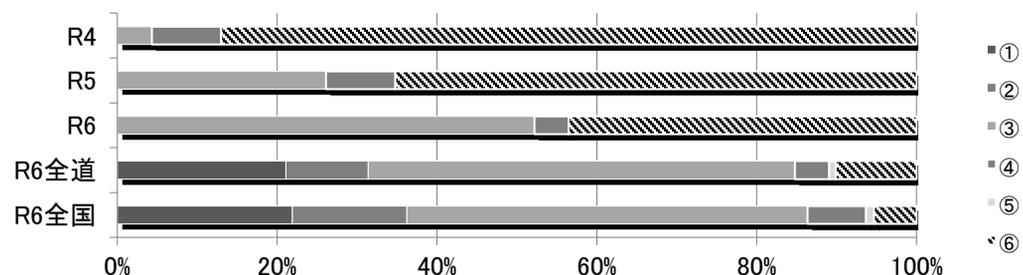
【中学校】



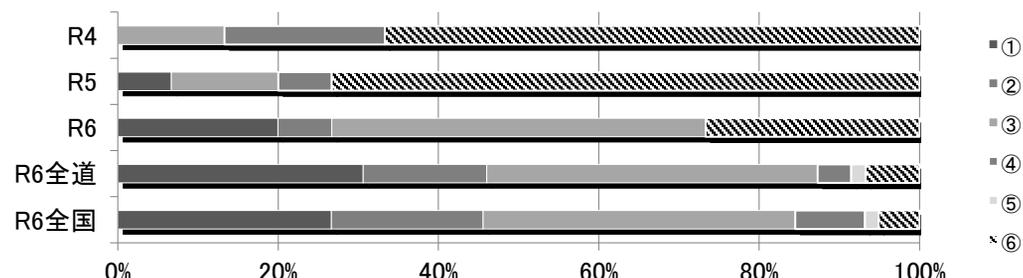
- ◆ 児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

①毎日持ち帰って、毎日利用 ②毎日持ち帰って、時々利用 ③時々持ち帰って、時々利用 ④持ち帰らせていない ⑤持ち帰ってはいけない ⑥臨時休業のみ

【小学校】



【中学校】



【考察】

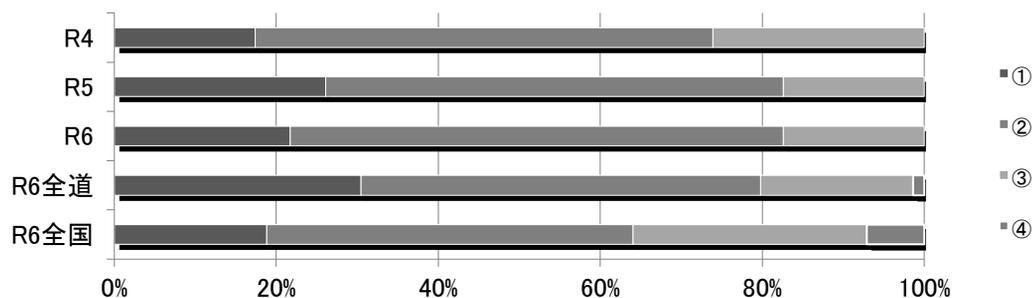
「児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」では、週3回以上活用していると回答した割合が、小学校、中学校ともに全国平均を上回っている。しかし、「週1回以上」と回答する学校も見られることから、今後も教職員のICT活用に関する研修会を行い、どのような場面で、どのように活用することがより効果的か、ICT活用への理解を深めていく必要があるとかがえる。端末の持ち帰りについては、令和4年度から持ち帰りの頻度は上昇傾向にあるものの、全国平均を下回る結果となっている。

〈小中連携の取組〉

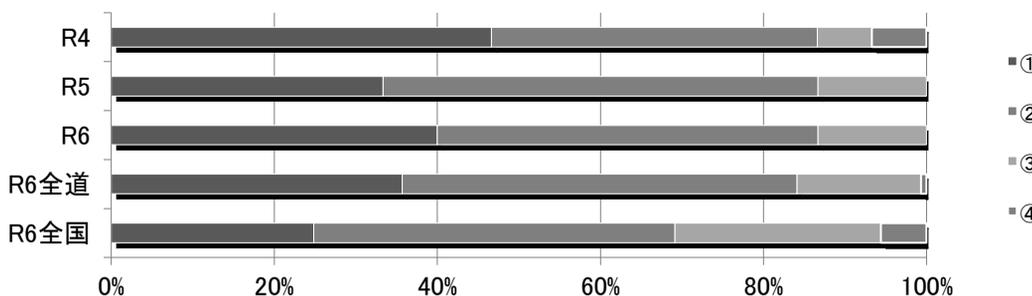
- ◆ 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った。

①よく行った ②どちらかといえば行った ③あまり行わなかった ④全く行わなかった

【小学校】



【中学校】



【考察】

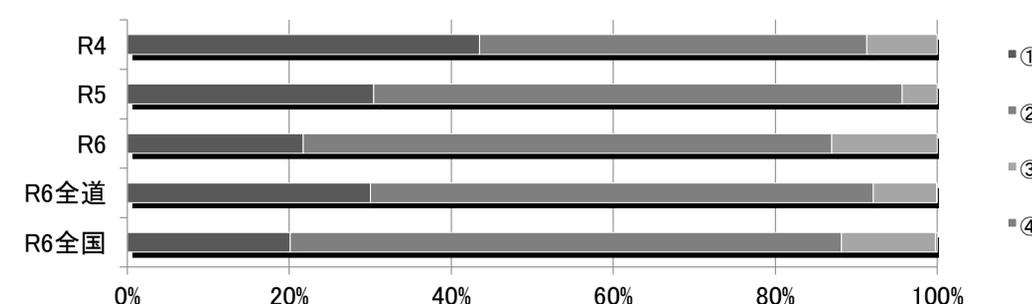
「近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」と回答した割合が小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っている。「Tomakomai All-9」に基づき、小・中学校が連携を図り、義務教育9年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されていると考えられる。今後も、エリアの学校同士が授業研究の交流や授業の相互乗り入れなど、学力向上のための教職員の意識の共有化と小中学校の9年間の学習を見通して、思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう授業改善に努めていく必要があるとかがえる。

〈授業改善〉

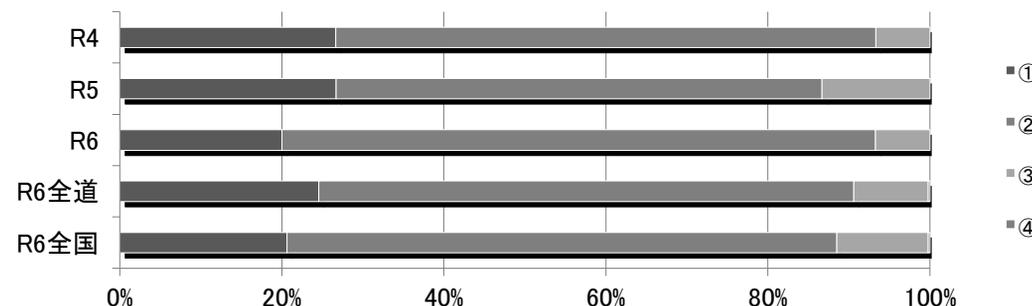
- ◆ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

【小学校】



【中学校】



【考察】

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思います」と回答した割合は、小学校、中学校ともにおよそ90%が肯定的に回答しており、令和5年度と比べ上昇傾向にある。今後は、令和6年度から苫小牧市教育委員会が推進している、授業における4つの共通取組場面「見通す」「決定する」「協働する」「振り返る」場面を学習活動に適切に位置付け、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善が図られる必要があるとかがえる。